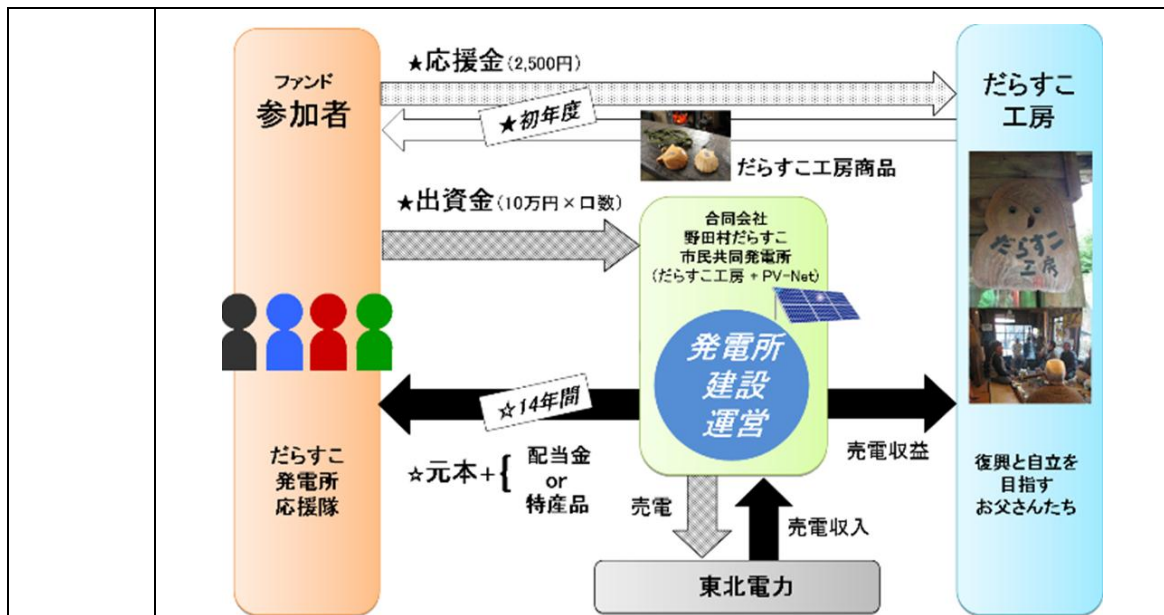


参考資料1 都道府県における再生可能エネルギー推進の取組

都道府県	岩手県																																																												
目標	<p>岩手県地球温暖化対策実行計画（平成 24 年 3 月策定） 期間：平成 23（2011 年）年度から平成 32（2020 年）年度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">エネルギー種別</th> <th colspan="2">現状(H22 年度)</th> <th colspan="3">目標値(H32 年度)</th> </tr> <tr> <th>導入量</th> <th>原油換算 (千 kl)</th> <th>導入量</th> <th>原油換算 (千 kl)</th> <th>増減率* (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">電力利用</td> <td>太陽光発電</td> <td>34,740kW</td> <td>9</td> <td>139,630kW</td> <td>38</td> <td>302</td> </tr> <tr> <td>風力発電</td> <td>67,099kW</td> <td>39</td> <td>575,099kW</td> <td>324</td> <td>757</td> </tr> <tr> <td>水力発電</td> <td>274,576kW</td> <td>278</td> <td>276,406kW</td> <td>280</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>地熱発電</td> <td>103,500kW</td> <td>198</td> <td>163,500kW</td> <td>313</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>バイオマス発電</td> <td>1,724kW</td> <td>3</td> <td>2,324kW</td> <td>4</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>481,639kW</td> <td>527</td> <td>1,156,959kW</td> <td>959</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>熱利用</td> <td>23,426kl</td> <td>23</td> <td>27,642kl</td> <td>28</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>550</td> <td></td> <td>987</td> <td>79</td> </tr> </tbody> </table> <p>県内エネルギー消費量に対する再生可能エネルギーの導入割合 現状（平成 21 年）：12.3% 目標値（平成 32 年度）：23.9% 再生可能エネルギーによる電力自給率 現状（平成 22 年）：18.1% 目標値（平成 32 年度）：35%</p>	エネルギー種別	現状(H22 年度)		目標値(H32 年度)			導入量	原油換算 (千 kl)	導入量	原油換算 (千 kl)	増減率* (%)	電力利用	太陽光発電	34,740kW	9	139,630kW	38	302	風力発電	67,099kW	39	575,099kW	324	757	水力発電	274,576kW	278	276,406kW	280	1	地熱発電	103,500kW	198	163,500kW	313	58	バイオマス発電	1,724kW	3	2,324kW	4	35	小計	481,639kW	527	1,156,959kW	959	82	熱利用	23,426kl	23	27,642kl	28	18	合計		550		987	79
エネルギー種別	現状(H22 年度)		目標値(H32 年度)																																																										
	導入量	原油換算 (千 kl)	導入量	原油換算 (千 kl)	増減率* (%)																																																								
電力利用	太陽光発電	34,740kW	9	139,630kW	38	302																																																							
	風力発電	67,099kW	39	575,099kW	324	757																																																							
	水力発電	274,576kW	278	276,406kW	280	1																																																							
	地熱発電	103,500kW	198	163,500kW	313	58																																																							
	バイオマス発電	1,724kW	3	2,324kW	4	35																																																							
	小計	481,639kW	527	1,156,959kW	959	82																																																							
熱利用	23,426kl	23	27,642kl	28	18																																																								
合計		550		987	79																																																								
根拠	再生可能エネルギーの種類毎に、近年の導入推移や各種対策の導入見込量、事業者の開発意向調査の結果等を踏まえて導入目標量を設定したもの。なお、電力利用及び熱利用の総エネルギー量を示すものとして、原油換算値を適用したもの。																																																												
特徴的な取組	<p>✓ 野田村だらすこ市民共同発電プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 48kW の市民共同発電所の建設 ・ 1 口 10 万円の市民ファンドで建設資金を全国から募り、その後 14 年間にわたって出資者に対し、元本償還と配当を行っていく。ファンドの配当目標は 1%。現金または、野田村の特産品で支払われる。 ・ 参加時に支払う 2,500 円の応援金で、だらすこ工房（地元の木工工房）から参加記念品が送られる ・ 15 年間の契約終了後には、太陽光発電設備は野田村へと寄贈される。固定価格買取制度では 20 年間の買取が保証されるため、ファンド出資者への償還と配当が終了した後の残り 6 年間の売電収入は村の収益になる想定。 ・ 被災地から遠く離れた場所に暮らすファンド出資者も、この出資を行い、配当を受け取ることで被災地と 15 年間にわたってつながりが生まれる。 ・ 「だらすこ太陽光市民ファンド」は、単なる資金集めにとどまらず、被災地の仕事づくり（木工職人、太陽光発電技術者）や地域への還元（売電収益、物産販売）にもつながる取組であり、ファンド出資者と被災者の架け橋となることで野田村ファンを増やしていきたいという願いが込められたプロジェクトである。 																																																												



出典) NPO 法人 太陽光発電所ネットワークホームページ

<http://www.peoplefund-support.com/%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%82%AF%E3%83%88%E4%B8%80%E8%A6%A7/%E9%87%8E%E7%94%B0%E6%9D%91%E3%81%A0%E3%82%89%E3%81%99%E3%81%93%E5%B8%82%E6%B0%91%E5%85%B1%E5%90%8C%E7%99%BA%E9%9B%BB%E6%89%80/>

- ✓ ポテンシャル情報や土地利用規制情報等を盛り込んだ導入支援マップの作成
(関係する全ての土地利用規制情報を網羅しているわけではない)
- ✓ 支援制度や相談窓口などの各種情報を一元化したポータルサイトの整備

都道府県	宮城県																																																																																																																																																														
目標	<p>再生可能エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進に関する基本的な計画 (平成 26 年 3 月策定)</p> <p>期間：2014(平成 26)年度から 2020(平成 32)年度までの 7 年間</p> <p style="text-align: center;">表 9 再生可能エネルギー等の導入目標</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>基準年 (2010 年度)</th> <th>現状年 (2012 年度)</th> <th>目標年 (2020 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>導入量</td> <td>24,107TJ</td> <td>19,583TJ</td> <td>30,747TJ</td> </tr> <tr> <td>うち再生可能エネルギー①</td> <td>20,793TJ</td> <td>15,834TJ</td> <td>20,625TJ</td> </tr> <tr> <td>導入量のうち電力消費量</td> <td>71 万 1,202MWh</td> <td>76 万 1,892MWh</td> <td>144 万 5,000MWh</td> </tr> <tr> <td>うち再生可能エネルギー②</td> <td>50 万 5,593MWh</td> <td>55 万 5,265MWh</td> <td>102 万 5,000MWh</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">表 10 再生可能エネルギー等の種別導入目標</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">エネルギー 種別</th> <th colspan="2">基準年 (2010 年度)</th> <th colspan="2">現状年 (2012 年度)</th> <th colspan="3">目標年 (2020 年度)</th> </tr> <tr> <th>出力等</th> <th>熱量換算 (TJ)</th> <th>出力等</th> <th>熱量換算 (TJ)</th> <th>出力等</th> <th>熱量換算 (TJ)</th> <th>基準年比 (出力等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">再生可能エネルギー 電気利用</td> <td>太陽光</td> <td>50MW</td> <td>362.5</td> <td>124MW</td> <td>896.7</td> <td>468MW</td> <td>3,382</td> <td>9.4 倍</td> </tr> <tr> <td>バイオマス</td> <td>103MW</td> <td>45.1</td> <td>103MW</td> <td>413.4</td> <td>107MW</td> <td>444</td> <td>9.8 倍</td> </tr> <tr> <td>風力</td> <td>0.02MW</td> <td>0.3</td> <td>0.02MW</td> <td>0.3</td> <td>40MW</td> <td>902</td> <td>2,000 倍</td> </tr> <tr> <td>水力</td> <td>74MW</td> <td>3,330.2</td> <td>74MW</td> <td>3,330.2</td> <td>89MW</td> <td>4,015</td> <td>1.2 倍</td> </tr> <tr> <td>地熱</td> <td>4MW</td> <td>716.3</td> <td>3MW</td> <td>251.2</td> <td>4MW</td> <td>283</td> <td>1.0 倍</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>231MW</td> <td>4,454.4</td> <td>304MW</td> <td>4,891.8</td> <td>708MW</td> <td>9,026</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">再生可能エネルギー 熱利用等</td> <td>太陽熱</td> <td>25 千件</td> <td>331.7</td> <td>26 千件</td> <td>336.5</td> <td>94 千件</td> <td>993</td> <td>3.8 倍</td> </tr> <tr> <td>バイオマス</td> <td>31 件</td> <td>16,006.6</td> <td>32 件</td> <td>10,605.9</td> <td>35 件</td> <td>10,606</td> <td>0.9 倍</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>—</td> <td>16,338.3</td> <td>—</td> <td>10,942.4</td> <td>—</td> <td>11,599</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">再生可能エネルギー エネルギーの高度利用</td> <td>小計</td> <td>—</td> <td>20,792.7</td> <td>—</td> <td>15,834.2</td> <td>—</td> <td>20,625</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>コージェネレーション</td> <td>116MW</td> <td>2,991.0</td> <td>117MW</td> <td>3,056.1</td> <td>236MW</td> <td>6,221</td> <td>2.0 倍</td> </tr> <tr> <td>燃料電池</td> <td>0.3MW (298kW)</td> <td>5.0</td> <td>0.2MW (220kW)</td> <td>3.7</td> <td>0.3MW (324kW)</td> <td>5</td> <td>1.0 倍</td> </tr> <tr> <td>クリーンエネルギー自動車 (県保有台数に占める割合)</td> <td>29 千台 (1.9%)</td> <td>318.4</td> <td>62.9 千台 (4.0%)</td> <td>689.4</td> <td>331 千台 (19.1%)</td> <td>3,896</td> <td>11.4 倍</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>117.3MW</td> <td>3,314.4</td> <td>117MW</td> <td>3,749.2</td> <td>236MW</td> <td>10,122</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>348.3MW</td> <td>24,107.1</td> <td>421MW</td> <td>19,583.4</td> <td>944.3MW</td> <td>30,747</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	種別	基準年 (2010 年度)	現状年 (2012 年度)	目標年 (2020 年度)	導入量	24,107TJ	19,583TJ	30,747TJ	うち再生可能エネルギー①	20,793TJ	15,834TJ	20,625TJ	導入量のうち電力消費量	71 万 1,202MWh	76 万 1,892MWh	144 万 5,000MWh	うち再生可能エネルギー②	50 万 5,593MWh	55 万 5,265MWh	102 万 5,000MWh	エネルギー 種別	基準年 (2010 年度)		現状年 (2012 年度)		目標年 (2020 年度)			出力等	熱量換算 (TJ)	出力等	熱量換算 (TJ)	出力等	熱量換算 (TJ)	基準年比 (出力等)	再生可能エネルギー 電気利用	太陽光	50MW	362.5	124MW	896.7	468MW	3,382	9.4 倍	バイオマス	103MW	45.1	103MW	413.4	107MW	444	9.8 倍	風力	0.02MW	0.3	0.02MW	0.3	40MW	902	2,000 倍	水力	74MW	3,330.2	74MW	3,330.2	89MW	4,015	1.2 倍	地熱	4MW	716.3	3MW	251.2	4MW	283	1.0 倍	小計	231MW	4,454.4	304MW	4,891.8	708MW	9,026	—	再生可能エネルギー 熱利用等	太陽熱	25 千件	331.7	26 千件	336.5	94 千件	993	3.8 倍	バイオマス	31 件	16,006.6	32 件	10,605.9	35 件	10,606	0.9 倍	小計	—	16,338.3	—	10,942.4	—	11,599	—	再生可能エネルギー エネルギーの高度利用	小計	—	20,792.7	—	15,834.2	—	20,625	—	コージェネレーション	116MW	2,991.0	117MW	3,056.1	236MW	6,221	2.0 倍	燃料電池	0.3MW (298kW)	5.0	0.2MW (220kW)	3.7	0.3MW (324kW)	5	1.0 倍	クリーンエネルギー自動車 (県保有台数に占める割合)	29 千台 (1.9%)	318.4	62.9 千台 (4.0%)	689.4	331 千台 (19.1%)	3,896	11.4 倍	小計	117.3MW	3,314.4	117MW	3,749.2	236MW	10,122	—	合計	348.3MW	24,107.1	421MW	19,583.4	944.3MW	30,747	—
種別	基準年 (2010 年度)	現状年 (2012 年度)	目標年 (2020 年度)																																																																																																																																																												
導入量	24,107TJ	19,583TJ	30,747TJ																																																																																																																																																												
うち再生可能エネルギー①	20,793TJ	15,834TJ	20,625TJ																																																																																																																																																												
導入量のうち電力消費量	71 万 1,202MWh	76 万 1,892MWh	144 万 5,000MWh																																																																																																																																																												
うち再生可能エネルギー②	50 万 5,593MWh	55 万 5,265MWh	102 万 5,000MWh																																																																																																																																																												
エネルギー 種別	基準年 (2010 年度)		現状年 (2012 年度)		目標年 (2020 年度)																																																																																																																																																										
	出力等	熱量換算 (TJ)	出力等	熱量換算 (TJ)	出力等	熱量換算 (TJ)	基準年比 (出力等)																																																																																																																																																								
再生可能エネルギー 電気利用	太陽光	50MW	362.5	124MW	896.7	468MW	3,382	9.4 倍																																																																																																																																																							
	バイオマス	103MW	45.1	103MW	413.4	107MW	444	9.8 倍																																																																																																																																																							
	風力	0.02MW	0.3	0.02MW	0.3	40MW	902	2,000 倍																																																																																																																																																							
	水力	74MW	3,330.2	74MW	3,330.2	89MW	4,015	1.2 倍																																																																																																																																																							
	地熱	4MW	716.3	3MW	251.2	4MW	283	1.0 倍																																																																																																																																																							
	小計	231MW	4,454.4	304MW	4,891.8	708MW	9,026	—																																																																																																																																																							
再生可能エネルギー 熱利用等	太陽熱	25 千件	331.7	26 千件	336.5	94 千件	993	3.8 倍																																																																																																																																																							
	バイオマス	31 件	16,006.6	32 件	10,605.9	35 件	10,606	0.9 倍																																																																																																																																																							
	小計	—	16,338.3	—	10,942.4	—	11,599	—																																																																																																																																																							
再生可能エネルギー エネルギーの高度利用	小計	—	20,792.7	—	15,834.2	—	20,625	—																																																																																																																																																							
	コージェネレーション	116MW	2,991.0	117MW	3,056.1	236MW	6,221	2.0 倍																																																																																																																																																							
	燃料電池	0.3MW (298kW)	5.0	0.2MW (220kW)	3.7	0.3MW (324kW)	5	1.0 倍																																																																																																																																																							
	クリーンエネルギー自動車 (県保有台数に占める割合)	29 千台 (1.9%)	318.4	62.9 千台 (4.0%)	689.4	331 千台 (19.1%)	3,896	11.4 倍																																																																																																																																																							
	小計	117.3MW	3,314.4	117MW	3,749.2	236MW	10,122	—																																																																																																																																																							
合計	348.3MW	24,107.1	421MW	19,583.4	944.3MW	30,747	—																																																																																																																																																								
根拠	<p>県内における普及状況や最近の導入動向等を考慮し、エネルギーの種別に応じた国や県、市町村などの施策を通じて、一定の導入が進むことを考慮し設定</p>																																																																																																																																																														

特徴的な取組

- ✓ 沿岸被災地へのメガソーラー設置による地域活性化
 - ・ 奥松島「絆」ソーラーパーク

奥松島公園跡地（市有地）の一部、約 4.7ha を東松島市が三井物産に有償貸与し、三井物産が約 2MW 規模のメガソーラーを設置。三井物産の事業として、東北電力への売電を行う。発電状況を随時確認できるパネルを開放部に設置し、環境教育施設としての利用も見込む。平成 25 年 8 月下旬運転開始。

 - ・ 宮城県農業高等学校跡地

日本アジアグループが、宮城県から 20 年間土地を借り受け発電事業（約 20MW）を実施する。2016 年度末に運転開始予定。

 - ・ 岩沼市沿岸部

事業主体は丸紅（東京）が全額出資する「いわぬま臨空メガソーラー」。津波の塩害と地盤沈下で農地利用が困難になった地域の復興策として、市が公募して選定した。28.3MW、事業期間は 20 年。同社は土地の賃貸借契約を結んだ地権者約 80 人に借地料を支払う。発電した電力は固定価格買い取り制度に基づき東北電力に売電。2015 年 4 月稼働予定。

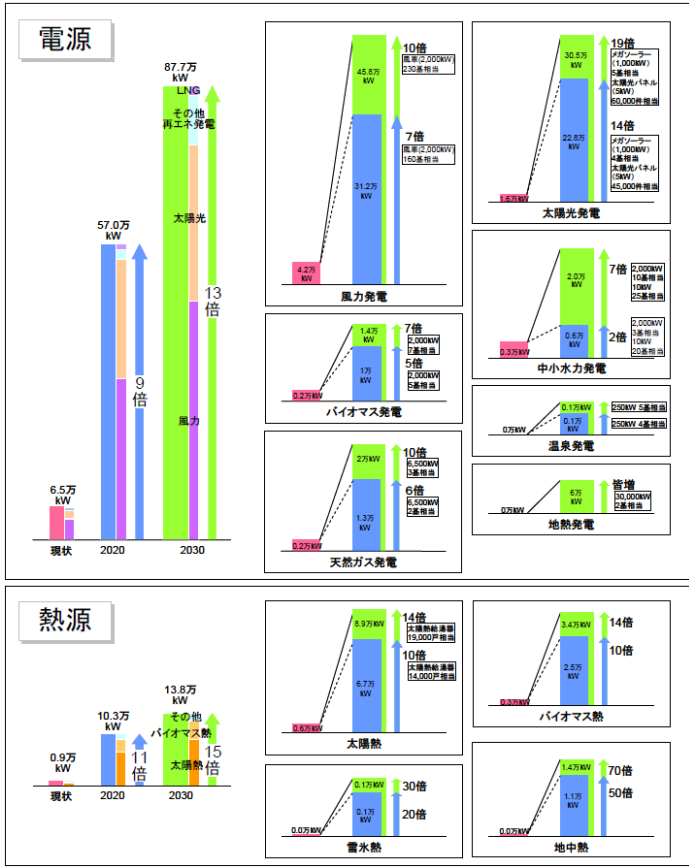
 - ・ さくらソーラーパーク

宮城県大崎市。地元企業 4 社が出資した「おおさき未来エネルギー」が事業者となり、市有地を借りて 2014 年 9 月に発電を始める。事業安定後はファンドを設立して出資を募る。収益還元には地元特産品などの活用を検討。

- ✓ 東松島スマート防災エコタウン
 - ・ 環境省「自立・分散型低炭素エネルギー社会構築推進事業」補助事業
 - ・ 東松島市と積水ハウスが共同で取り組む。2015 年 8 月の入居を目指す
 - ・ 災害公営住宅 85 戸（戸建住宅 70 戸、集合住宅 15 戸）と周辺の病院、公共施設等を結ぶ自営線によるマイクログリッドを構築し、太陽光発電を持つ自営線特定規模電気事業者(自営線 PPS) が CEMS により最適制御しながら電力供給を行う
 - ・ 系統電力が遮断した場合にも 3 日間は通常の電力供給が可能。大震災のような長期の停電時にも、太陽光発電と蓄電池を組み合わせることで病院や集会所などへの最低限の電力供給の継続が可能。
 - ・ 太陽光発電合計 470kW、大型蓄電池（500kWh）、非常用バイオディーゼル発電機（500kW）で構成。



出典) 積水ハウス株式会社ホームページ
http://www.sekisuihouse.co.jp/company/topics/datail/_icsFiles/afieldfile/2015/03/06/20150306.pdf

都道府県	山形県				
目標	<p>山形県エネルギー戦略（平成 24 年 3 月策定）</p> <table border="1" data-bbox="373 376 1364 680"> <tr> <td data-bbox="373 376 683 528">2030 年の開発目標 東日本大震災発生前（2010 年度）の電力消費量の約 25%</td> <td data-bbox="683 376 1364 528">101.5 万 kW（23 億 100 万 kWh / 8,284 千 GJ） 電源 87.7 万 kW（19 億 6,000 万 kWh / 7,056 千 GJ） 熱源 13.8 万 kW（3 億 4,100 万 kWh / 1,228 千 GJ）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 528 683 680">2020 年の開発目標 東日本大震災発生前（2010 年度）の電力消費量の約 14%</td> <td data-bbox="683 528 1364 680">67.3 万 kW（12 億 8,300 万 kWh / 4,619 千 GJ） 電源 57.0 万 kW（10 億 2,900 万 kWh / 3,704.5 千 GJ） 熱源 10.3 万 kW（2 億 5,400 万 kWh / 914.5 千 GJ）</td> </tr> </table> 	2030 年の開発目標 東日本大震災発生前（2010 年度）の電力消費量の約 25%	101.5 万 kW（23 億 100 万 kWh / 8,284 千 GJ） 電源 87.7 万 kW（19 億 6,000 万 kWh / 7,056 千 GJ） 熱源 13.8 万 kW（3 億 4,100 万 kWh / 1,228 千 GJ）	2020 年の開発目標 東日本大震災発生前（2010 年度）の電力消費量の約 14%	67.3 万 kW（12 億 8,300 万 kWh / 4,619 千 GJ） 電源 57.0 万 kW（10 億 2,900 万 kWh / 3,704.5 千 GJ） 熱源 10.3 万 kW（2 億 5,400 万 kWh / 914.5 千 GJ）
2030 年の開発目標 東日本大震災発生前（2010 年度）の電力消費量の約 25%	101.5 万 kW（23 億 100 万 kWh / 8,284 千 GJ） 電源 87.7 万 kW（19 億 6,000 万 kWh / 7,056 千 GJ） 熱源 13.8 万 kW（3 億 4,100 万 kWh / 1,228 千 GJ）				
2020 年の開発目標 東日本大震災発生前（2010 年度）の電力消費量の約 14%	67.3 万 kW（12 億 8,300 万 kWh / 4,619 千 GJ） 電源 57.0 万 kW（10 億 2,900 万 kWh / 3,704.5 千 GJ） 熱源 10.3 万 kW（2 億 5,400 万 kWh / 914.5 千 GJ）				
根拠	<p>目指すべき本県の姿を実現するために、再生可能エネルギーと代替エネルギーを利用した「電源」と「熱源」の開発量を本戦略における目標として位置付けるとともに、基本構想期間（20 年）及び政策推進プログラムの展開期間（10 年）中における定量的目標を定める。</p> <p>エネルギー政策基本構想の構想期間である 20 年後には、「電源」と「熱源」の総和として電力換算で、発電能力で 100 万 kW と概ね原子力発電所 1 基分に相当する規模の新たなエネルギー資源の開発を目指していく。これは、東日本大震災の発災前（2010 年度時点）の電力消費総量の約 25% に相当する。</p>				
特徴的な取組					

都道府県	福島県																																																																																																																																																																																	
目標	<p>福島県再生可能エネルギー推進ビジョン（改訂版）（平成 24 年 3 月策定） 期間：2011（平成 23）年度から 2020（平成 32）年度までの 10 年間</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種 類</th> <th colspan="2">2009年度実績</th> <th colspan="2">2020年度目標</th> <th rowspan="2">倍率</th> <th colspan="2">2030年度目標</th> <th rowspan="2">倍率</th> </tr> <tr> <th>原油換算</th> <th>設備容量 (発電電力量)²⁾</th> <th>原油換算</th> <th>設備容量 (発電電力量)²⁾</th> <th>原油換算</th> <th>設備容量 (発電電力量)²⁾</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="9">再生可能エネルギー</td> </tr> <tr> <td>太陽光発電</td> <td>9,298kl</td> <td>38,874kW (41百万kWh)</td> <td>239,175kl</td> <td>1,000,000kW (1,051百万kWh)</td> <td>25.7</td> <td>478,349kl</td> <td>2,000,000kW (2,102百万kWh)</td> <td>51.4</td> </tr> <tr> <td>太陽熱利用</td> <td>11,262kl</td> <td></td> <td>33,786kl</td> <td></td> <td>3.0</td> <td>50,000kl</td> <td></td> <td>4.4</td> </tr> <tr> <td>風力発電</td> <td>27,856kl</td> <td>69,880kW (122百万kWh)</td> <td>996,561kl</td> <td>2,000,000kW (4,380百万kWh)</td> <td>35.8</td> <td>1,993,122kl</td> <td>4,000,000kW (8,760百万kWh)</td> <td>71.6</td> </tr> <tr> <td>うち洋上風力発電</td> <td>0kl</td> <td>0kW (0百万kWh)</td> <td>597,936kl</td> <td>1,000,000kW (2,628百万kWh)</td> <td>—</td> <td>1,195,873kl</td> <td>2,000,000kW (5,256百万kWh)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>水力発電</td> <td>1,598,280kl</td> <td>3,973,490kW (7,025百万kWh)</td> <td>1,608,326kl</td> <td>3,980,690kW (7,069百万kWh)</td> <td>1.0</td> <td>1,634,360kl</td> <td>4,000,000kW (7,183百万kWh)</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>うち小水力発電</td> <td>20,091kl</td> <td>14,400kW (88百万kWh)</td> <td>30,136kl</td> <td>21,600kW (132百万kWh)</td> <td>1.5</td> <td>55,807kl</td> <td>40,000kW (245百万kWh)</td> <td>2.8</td> </tr> <tr> <td>地熱発電</td> <td>77,732kl</td> <td>65,000kW (342百万kWh)</td> <td>80,522kl</td> <td>67,000kW (354百万kWh)</td> <td>1.0</td> <td>281,030kl</td> <td>230,000kW (1,235百万kWh)</td> <td>3.6</td> </tr> <tr> <td>うち地熱バイナリー発電</td> <td>0kl</td> <td>0kW (0百万kWh)</td> <td>2,790kl</td> <td>2,000kW (12百万kWh)</td> <td>—</td> <td>41,856kl</td> <td>30,000kW (184百万kWh)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>バイオマス発電</td> <td>75,390kl</td> <td>66,360kW (331百万kWh)</td> <td>408,989kl</td> <td>360,000kW (1,798百万kWh)</td> <td>5.4</td> <td>568,040kl</td> <td>500,000kW (2,497百万kWh)</td> <td>7.5</td> </tr> <tr> <td>バイオマス熱利用</td> <td>123,760kl</td> <td></td> <td>150,084kl</td> <td></td> <td>1.2</td> <td>200,000kl</td> <td></td> <td>1.6</td> </tr> <tr> <td>バイオマス燃料製造</td> <td>597kl</td> <td></td> <td>2,985kl</td> <td></td> <td>5.0</td> <td>29,850kl</td> <td></td> <td>50.0</td> </tr> <tr> <td>温度差熱利用</td> <td>175kl</td> <td></td> <td>1,750kl</td> <td></td> <td>10.0</td> <td>3,500kl</td> <td></td> <td>20.0</td> </tr> <tr> <td>雪氷熱利用</td> <td>29kl</td> <td></td> <td>290kl</td> <td></td> <td>10.0</td> <td>580kl</td> <td></td> <td>20.0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,924,379kl</td> <td>4,213,604kW (7,861百万kWh)</td> <td>3,522,467kl</td> <td>7,407,690kW (14,651百万kWh)</td> <td>1.8</td> <td>5,238,830kl</td> <td>10,730,000kW (21,777百万kWh)</td> <td>2.7</td> </tr> <tr> <td>一次エネルギーに占める割合</td> <td>21.2%</td> <td></td> <td>40.2%</td> <td></td> <td></td> <td>63.7%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>一次エネルギー供給³⁾</td> <td>9,087,228kl</td> <td></td> <td>8,747,117kl</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>8,219,734kl</td> <td></td> <td>0.9</td> </tr> <tr> <td>二酸化炭素削減量⁴⁾</td> <td>5,041,872t-CO2</td> <td></td> <td>9,228,863t-CO2</td> <td></td> <td></td> <td>13,725,736t-CO2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種 類	2009年度実績		2020年度目標		倍率	2030年度目標		倍率	原油換算	設備容量 (発電電力量) ²⁾	原油換算	設備容量 (発電電力量) ²⁾	原油換算	設備容量 (発電電力量) ²⁾	再生可能エネルギー									太陽光発電	9,298kl	38,874kW (41百万kWh)	239,175kl	1,000,000kW (1,051百万kWh)	25.7	478,349kl	2,000,000kW (2,102百万kWh)	51.4	太陽熱利用	11,262kl		33,786kl		3.0	50,000kl		4.4	風力発電	27,856kl	69,880kW (122百万kWh)	996,561kl	2,000,000kW (4,380百万kWh)	35.8	1,993,122kl	4,000,000kW (8,760百万kWh)	71.6	うち洋上風力発電	0kl	0kW (0百万kWh)	597,936kl	1,000,000kW (2,628百万kWh)	—	1,195,873kl	2,000,000kW (5,256百万kWh)	—	水力発電	1,598,280kl	3,973,490kW (7,025百万kWh)	1,608,326kl	3,980,690kW (7,069百万kWh)	1.0	1,634,360kl	4,000,000kW (7,183百万kWh)	1.0	うち小水力発電	20,091kl	14,400kW (88百万kWh)	30,136kl	21,600kW (132百万kWh)	1.5	55,807kl	40,000kW (245百万kWh)	2.8	地熱発電	77,732kl	65,000kW (342百万kWh)	80,522kl	67,000kW (354百万kWh)	1.0	281,030kl	230,000kW (1,235百万kWh)	3.6	うち地熱バイナリー発電	0kl	0kW (0百万kWh)	2,790kl	2,000kW (12百万kWh)	—	41,856kl	30,000kW (184百万kWh)	—	バイオマス発電	75,390kl	66,360kW (331百万kWh)	408,989kl	360,000kW (1,798百万kWh)	5.4	568,040kl	500,000kW (2,497百万kWh)	7.5	バイオマス熱利用	123,760kl		150,084kl		1.2	200,000kl		1.6	バイオマス燃料製造	597kl		2,985kl		5.0	29,850kl		50.0	温度差熱利用	175kl		1,750kl		10.0	3,500kl		20.0	雪氷熱利用	29kl		290kl		10.0	580kl		20.0	計	1,924,379kl	4,213,604kW (7,861百万kWh)	3,522,467kl	7,407,690kW (14,651百万kWh)	1.8	5,238,830kl	10,730,000kW (21,777百万kWh)	2.7	一次エネルギーに占める割合	21.2%		40.2%			63.7%			一次エネルギー供給 ³⁾	9,087,228kl		8,747,117kl		1.0	8,219,734kl		0.9	二酸化炭素削減量 ⁴⁾	5,041,872t-CO2		9,228,863t-CO2			13,725,736t-CO2		
種 類	2009年度実績		2020年度目標		倍率	2030年度目標		倍率																																																																																																																																																																										
	原油換算	設備容量 (発電電力量) ²⁾	原油換算	設備容量 (発電電力量) ²⁾		原油換算	設備容量 (発電電力量) ²⁾																																																																																																																																																																											
再生可能エネルギー																																																																																																																																																																																		
太陽光発電	9,298kl	38,874kW (41百万kWh)	239,175kl	1,000,000kW (1,051百万kWh)	25.7	478,349kl	2,000,000kW (2,102百万kWh)	51.4																																																																																																																																																																										
太陽熱利用	11,262kl		33,786kl		3.0	50,000kl		4.4																																																																																																																																																																										
風力発電	27,856kl	69,880kW (122百万kWh)	996,561kl	2,000,000kW (4,380百万kWh)	35.8	1,993,122kl	4,000,000kW (8,760百万kWh)	71.6																																																																																																																																																																										
うち洋上風力発電	0kl	0kW (0百万kWh)	597,936kl	1,000,000kW (2,628百万kWh)	—	1,195,873kl	2,000,000kW (5,256百万kWh)	—																																																																																																																																																																										
水力発電	1,598,280kl	3,973,490kW (7,025百万kWh)	1,608,326kl	3,980,690kW (7,069百万kWh)	1.0	1,634,360kl	4,000,000kW (7,183百万kWh)	1.0																																																																																																																																																																										
うち小水力発電	20,091kl	14,400kW (88百万kWh)	30,136kl	21,600kW (132百万kWh)	1.5	55,807kl	40,000kW (245百万kWh)	2.8																																																																																																																																																																										
地熱発電	77,732kl	65,000kW (342百万kWh)	80,522kl	67,000kW (354百万kWh)	1.0	281,030kl	230,000kW (1,235百万kWh)	3.6																																																																																																																																																																										
うち地熱バイナリー発電	0kl	0kW (0百万kWh)	2,790kl	2,000kW (12百万kWh)	—	41,856kl	30,000kW (184百万kWh)	—																																																																																																																																																																										
バイオマス発電	75,390kl	66,360kW (331百万kWh)	408,989kl	360,000kW (1,798百万kWh)	5.4	568,040kl	500,000kW (2,497百万kWh)	7.5																																																																																																																																																																										
バイオマス熱利用	123,760kl		150,084kl		1.2	200,000kl		1.6																																																																																																																																																																										
バイオマス燃料製造	597kl		2,985kl		5.0	29,850kl		50.0																																																																																																																																																																										
温度差熱利用	175kl		1,750kl		10.0	3,500kl		20.0																																																																																																																																																																										
雪氷熱利用	29kl		290kl		10.0	580kl		20.0																																																																																																																																																																										
計	1,924,379kl	4,213,604kW (7,861百万kWh)	3,522,467kl	7,407,690kW (14,651百万kWh)	1.8	5,238,830kl	10,730,000kW (21,777百万kWh)	2.7																																																																																																																																																																										
一次エネルギーに占める割合	21.2%		40.2%			63.7%																																																																																																																																																																												
一次エネルギー供給 ³⁾	9,087,228kl		8,747,117kl		1.0	8,219,734kl		0.9																																																																																																																																																																										
二酸化炭素削減量 ⁴⁾	5,041,872t-CO2		9,228,863t-CO2			13,725,736t-CO2																																																																																																																																																																												
根拠	<p>本県の再生可能エネルギーの導入目標の設定に当たっては、これまでのエネルギー供給県としての実績と役割の大きさ、地球温暖化の危機を回避するために諸外国が掲げている目標、一定の省資源・省エネルギー対策の成果、再生可能エネルギーの導入推進が復興へ向けた重点プロジェクトであることなどを考慮しながら、産学民官それぞれが役割を十分に果たした姿として、目標年度の 2020 年には県内の一次エネルギー供給に占める再生可能エネルギーの割合が約 40%を占めている社会を想定し、目標導入量（最大導入ケース）を設定。</p> <p>また、地熱発電や洋上風力発電など、導入まで長時間を要する大規模な開発についても、将来的な導入に向けた取組を掲げる必要があると考え、2030 年度の導入目標も設定。本県は、2020 年度と 2030 年度における導入目標を設定するとともに、その延長線として、2040 年頃を目途に、県内のエネルギー需要量の 100%以上に相当する量のエネルギーを再生可能エネルギーで生み出す県を目指す。</p>																																																																																																																																																																																	
特徴的な取組	<p>✓ ふくしま再生可能エネルギー事業ネット（福島県再生可能エネルギー推進センター）</p> <p>福島県における再生可能エネルギーの更なる普及拡大を目指し、地域主導による再生可能エネルギー事業への取組に対する支援を目的とした、市民個人・市民団体・各地域の企業・団体・大学等、事業に携わる各分野の関係者がつながる協働ネットワーク</p> <p>✓ 福島空港メガソーラー</p> <p>建設費用 4 億のうち 1 億を県民参加型ファンドにより調達。発電所は北発電所 (500kw)、太陽追尾型パネルと 30 種のパネルからなるソーラーパーク (北</p>																																																																																																																																																																																	

	<p>発電所隣接で約 200kw)、南発電所 (500kw) から構成。2014 年 4 月竣工。</p> <p>✓ 福島発電株式会社</p> <p>県、市町村、金融機関、発電事業者等で設立。</p> <p>再生可能エネルギー発電事業の拡大、太陽光発電関連産業の進展、再生可能エネルギー学習環境の整備などをビジョンに掲げている。</p> <p>福島空港太陽光発電所の売電益により以下の事業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 再生可能エネルギー発電事業の拡大 <ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギー発電の経営や技術に関するセミナーを開催 ・ 太陽光発電関連産業の進展 <p>福島空港太陽光発電所には、<u>30 種類以上の太陽光パネルと多様な架台を設置。産業技術総合研究所の「福島再生可能エネルギー研究所」(2014 年 4 月開所予定) の支援を受けて、太陽光パネルが実際の環境でどう発電し、どのようなトラブルを起し、どう経年変化するのか、長期的に運用評価し、太陽光発電の維持管理など関連する産業の振興につなげる。</u></p> ・ 再生可能エネルギー学習環境の整備 <p>福島発電株式会社社長は、福島県内で再生可能エネルギー教育を推進する協議会の代表でもある。教育委員会や県内の再生可能エネルギー発電事業者と連携し、福島空港や県内各地の再生可能エネルギー発電所で、再生可能エネルギーを体験的に学べる環境を整える。</p>
--	--

都道府県	栃木県																																			
目標	<p>とちぎエネルギー戦略（平成 26 年 3 月策定）</p> <p>表6 再生可能エネルギーの目標 (万kW)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th colspan="3">設備容量</th> </tr> <tr> <th>2005 年度 (基準年)</th> <th>2011 年度 (現状)</th> <th>2030 年度 (目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設備容量</td> <td>38</td> <td>49</td> <td>160 (4 倍)</td> </tr> <tr> <td>うち太陽光</td> <td>3</td> <td>10</td> <td>120 (40 倍)</td> </tr> </tbody> </table> <p>表 7 電力自給率の目標 (%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内訳</th> <th>2005 年度 (基準年)</th> <th>2011 年度 (現状)</th> <th>2030 年度 (目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電力自給率</td> <td>15</td> <td>17</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>再生可能エネルギー</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>再エネ以外の分散型電源</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>県外からの供給等</td> <td>85</td> <td>83</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>	種別	設備容量			2005 年度 (基準年)	2011 年度 (現状)	2030 年度 (目標)	設備容量	38	49	160 (4 倍)	うち太陽光	3	10	120 (40 倍)	内訳	2005 年度 (基準年)	2011 年度 (現状)	2030 年度 (目標)	電力自給率	15	17	70	再生可能エネルギー	6	7	13	再エネ以外の分散型電源	9	10	57	県外からの供給等	85	83	30
種別	設備容量																																			
	2005 年度 (基準年)	2011 年度 (現状)	2030 年度 (目標)																																	
設備容量	38	49	160 (4 倍)																																	
うち太陽光	3	10	120 (40 倍)																																	
内訳	2005 年度 (基準年)	2011 年度 (現状)	2030 年度 (目標)																																	
電力自給率	15	17	70																																	
再生可能エネルギー	6	7	13																																	
再エネ以外の分散型電源	9	10	57																																	
県外からの供給等	85	83	30																																	
根拠	本県に豊富に存在する太陽光、水力、森林等の地域資源を最大限活用し、「地球温暖化対策」、「環境関連産業の育成・地域活性化」、「災害に強い地域づくり」の視点も踏まえ、最大限の導入を進める																																			
特徴的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ダム ESCO 事業（寺山ダム） <ul style="list-style-type: none"> ・ 民間活力を活用して「水力発電(創エネ)」と「既存設備の省エネルギー化(省エネ)」を併せて行う全国初の取組 ・ H25.9 発電開始 設備容量 : 190kW ✓ 河川活用発電サポート事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内河川における水力発電の一層の導入を促進するために、県が民間の発電事業者を積極的に支援し、先行事例をつくることにより他の地点へ波及を図る。県が公表した有望地点のうち、12 地点 4 事業者が決定（平成 26 年 3 月 12 日）。サポート事業者選定においては、「事業実施の確実性」と「地域貢献策の提案」を重視 																																			

都道府県	群馬県																																																														
目標	<p>再生可能エネルギー等導入推進基金事業計画書（全体計画書）</p> <p>＜群馬県再生可能エネルギー導入目標（平成25年3月見直し）＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H23年度状況(kW)</th> <th>目標値(H27年度)(kW)</th> <th>H23年度比(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">太陽光発電</td> <td>住宅用</td> <td>87,750</td> <td>247,310</td> <td>282</td> </tr> <tr> <td>公共施設</td> <td>1,969</td> <td>14,140</td> <td>718</td> </tr> <tr> <td>県</td> <td>399</td> <td>4,400</td> <td>1,103</td> </tr> <tr> <td>市町村</td> <td>1,570</td> <td>9,740</td> <td>620</td> </tr> <tr> <td>事業所</td> <td>5,186</td> <td>87,830</td> <td>1,694</td> </tr> <tr> <td>大規模発電</td> <td>0</td> <td>123,900</td> <td>皆増</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>94,905</td> <td>473,180</td> <td>499</td> </tr> <tr> <td>小水力発電</td> <td>7,601</td> <td>8,910</td> <td>117</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">バイオマス発電</td> <td>畜産等(燃焼)</td> <td>0</td> <td>1,500</td> <td>皆増</td> </tr> <tr> <td>木質</td> <td>13,600</td> <td>15,600</td> <td>115</td> </tr> <tr> <td>メタン発酵</td> <td>30</td> <td>530</td> <td>1,767</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13,630</td> <td>17,630</td> <td>129</td> </tr> <tr> <td>風力発電</td> <td>340</td> <td>540</td> <td>159</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>116,476</td> <td>500,260</td> <td>429</td> </tr> </tbody> </table>	項目	H23年度状況(kW)	目標値(H27年度)(kW)	H23年度比(%)	太陽光発電	住宅用	87,750	247,310	282	公共施設	1,969	14,140	718	県	399	4,400	1,103	市町村	1,570	9,740	620	事業所	5,186	87,830	1,694	大規模発電	0	123,900	皆増	計	94,905	473,180	499	小水力発電	7,601	8,910	117	バイオマス発電	畜産等(燃焼)	0	1,500	皆増	木質	13,600	15,600	115	メタン発酵	30	530	1,767	計	13,630	17,630	129	風力発電	340	540	159	合計	116,476	500,260	429
項目	H23年度状況(kW)	目標値(H27年度)(kW)	H23年度比(%)																																																												
太陽光発電	住宅用	87,750	247,310	282																																																											
	公共施設	1,969	14,140	718																																																											
	県	399	4,400	1,103																																																											
	市町村	1,570	9,740	620																																																											
	事業所	5,186	87,830	1,694																																																											
	大規模発電	0	123,900	皆増																																																											
計	94,905	473,180	499																																																												
小水力発電	7,601	8,910	117																																																												
バイオマス発電	畜産等(燃焼)	0	1,500	皆増																																																											
	木質	13,600	15,600	115																																																											
	メタン発酵	30	530	1,767																																																											
	計	13,630	17,630	129																																																											
風力発電	340	540	159																																																												
合計	116,476	500,260	429																																																												
根拠																																																															
特徴的な取組	<p>✓ 全国初の自治体主体の新電力誕生（中之条町）</p> <p>地域の資源を活用し、メガソーラー、小水力、木質バイオマス発電により、エネルギー地産地消を推進する計画。</p> <p>群馬県は水力発電調査費補助等や技術支援により取組を後押ししている。</p> <p>接続制限の影響を受けており、早期の解決が期待される。</p> <div data-bbox="400 1200 1212 1632" data-label="Diagram"> <p style="text-align: center;">町が取り組むエネルギー地産地消の仕組み</p> <p>The diagram illustrates the energy local production and consumption mechanism in Nakanojo Town. It shows the flow of electricity from renewable energy sources (solar and biomass) to a local utility company (Nakanojo Electric) and then to public facilities and schools. It also shows the flow of electricity purchase fees from the utility company back to the town and investors.</p> </div> <p>出典) nikkei BP net http://techon.nikkeibp.co.jp/article/FEATURE/20140530/355121/?ST=msb</p>																																																														

都道府県	埼玉県
目標	<p>埼玉県環境基本計画（平成 24 年 7 月策定） 期間：平成 24 年度から平成 33 年度まで（5 年を目途に見直し）</p> <p>住宅用太陽光発電設備の設置数 41,637 基（H22 年度末）→14 万基（H28 年度末）</p> <p>再生可能エネルギーの供給量 3,070TJ（H21 年度）→5,600TJ（H28 年度）</p>
根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅用太陽光発電設備の設置数 （指標の選定理由）太陽光は、本県の特性を生かすことができる再生可能エネルギーであり、これを活用することで温室効果ガスの排出抑制及びエネルギーの安定供給に寄与することから選定。 （目標値の根拠）住宅用太陽光発電設備の導入を支援することにより、県内の住宅用太陽光発電設備の普及・拡大を進め、平成 22 年度から約 10 万基増加させることを目指して設定。 ・再生可能エネルギーの供給量 （指標の選定理由）再生可能エネルギー全体の普及を表す指標として適当なことから選定。 （目標値の根拠）家庭部門と業務産業部門に分け、住宅用太陽光発電設備の導入拡大など、県が推進する施策、さらに工場や商業施設が進める太陽熱設備など、各主体が取り組む各種施策を考慮して、平成 21 年度の約 1.8 倍の供給量を目指して設定。
特徴的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 埼玉エコタウンプロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県で<u>再生可能エネルギーの創エネと、徹底した省エネでエネルギーの地産地消を具体的に進めるモデルを作り、全国へ発信することをコンセプトとする。</u>プロジェクトを展開する市町として、平成 24 年 5 月に 5 市町を指定。 ・「スマートシティ」とは異なる「埼玉エコタウン」の特徴 <ol style="list-style-type: none"> (1) 既成市街地を変える (2) 住民ニーズに沿った支援を実施 (3) 多様な地元企業の参画を促進する ・既存の 300～500 戸の住宅群を「重点実施街区」として指定。 重点実施街区の住民に対し、説明会やイベントを通じてきめ細かな周知やニーズの掘り起こしを行った。そして地元企業が自主的に結成した「エコタウン応援隊」や“まち”の電気屋さんなど多様な事業者の積極的な参加により、地域経済の活性化にもつながるエコタウンづくりを実現した。 ・<u>両重点実施街区における太陽光普及率は県全体の 3 倍に当たる 18.1%、3 年間のエネルギー削減率の総計は、県全体（家庭部門）の 1.2%減を大きく上回る 22.5%の削減を達成。県内企業による施工率も 91.7%となった。</u> ✓ 地域通貨と交換可能なポイントを売電益で賄うエコ商店街（東松山市）



出典) 埼玉県ホームページ
<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0501/documents/644864.pdf>

✓ 売電益を大学と市民との交流に活用 (坂戸市)



出典) 埼玉県ホームページ
<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0501/documents/644864.pdf>

都道府県	神奈川県						
目標	かながわスマートエネルギー計画（平成26年4月策定） 1. 県内の年間電力消費量 2010年度比で、2020年度10%削減、2030年度15%削減 2. 県内の年間電力消費量に対する分散型電源による発電量の割合 2020年度25%、2030年度45% 表1 神奈川県内の電力消費量と分散型電源発電量の目標一覧 (単位：億kWh)						
		平成22年度 (2010年度)	平成24年度 (2012年度)	平成29年度 (2017年度)	平成32年度 (2020年度)	平成42年度 (2030年度)	
電力消費量	(A)	590.06	553.35 (▲6%)	538 (▲8%)	531 (▲10%)	501 (▲15%)	
分散型電源発電量	再生可能エネルギー等	14.59	17.16	42	57	104	
	(内数)太陽光	(1.38)	(3.75)	(24)	(38)	(85)	
	コージェネ	ガスコージェネレーション	28.20	29.12	37	58	94
		燃料電池(家庭用・産業用)	0.11	0.31	1	3	14
		その他コージェネレーション	13.79	13.74	13	13	13
	計	(B)	56.69	60.33	93	131	225
(B)/(A)	(%)	9.6%	10.9%	17%	25%	45%	

○ 神奈川県内の再生可能エネルギー等による発電量の導入目標の内訳
 導入ポテンシャルが高い太陽光発電の導入促進に重点的に取り組み、
 2030年度(85.67億kWh)には2010年度(1.38億kWh)の約60倍の発電量を
 目指します。

上段：発電量 下段：発電出力	平成22年度 (2010年度)	平成24年度 (2012年度)	平成29年度 (2017年度)	平成32年度 (2020年度)	平成42年度 (2030年度)
太陽光発電	1.38億kWh 13.11万kW	3.75億kWh 35.63万kW	24.18億kWh 230.00万kW	38.37億kWh 365.00万kW	85.67億kWh 815.00万kW
住宅用	1.19億kWh 11.29万kW	2.45億kWh 23.31万kW	9.67億kWh 92.00万kW	15.35億kWh 146.00万kW	34.27億kWh 326.00万kW
	0.19億kWh 1.82万kW	1.30億kWh 12.32万kW	14.51億kWh 138.00万kW	23.02億kWh 219.00万kW	51.40億kWh 489.00万kW
非住宅用	0.19億kWh 1.82万kW	1.30億kWh 12.32万kW	14.51億kWh 138.00万kW	23.02億kWh 219.00万kW	51.40億kWh 489.00万kW
	0.19億kWh 0.73万kW	0.19億kWh 0.73万kW	0.13億kWh 0.74万kW	0.14億kWh 0.75万kW	0.14億kWh 0.78万kW
水力発電	4.51億kWh 40.92万kW	4.22億kWh 40.92万kW	4.47億kWh 40.94万kW	4.49億kWh 40.98万kW	4.54億kWh 41.07万kW
風力発電	0.19億kWh 0.73万kW	0.19億kWh 0.73万kW	0.13億kWh 0.74万kW	0.14億kWh 0.75万kW	0.14億kWh 0.78万kW
バイオマス・廃棄物発電	8.51億kWh 17.73万kW	9.00億kWh 18.86万kW	13.45億kWh 24.92万kW	14.11億kWh 26.42万kW	14.11億kWh 26.42万kW
	0.00億kWh 0.00万kW	0.00億kWh 0.00万kW	0.00億kWh 0.00万kW	0.01億kWh 0.01万kW	0.09億kWh 0.11万kW
合計	14.59億kWh 72.49万kW	17.16億kWh 96.14万kW	42.23億kWh 296.60万kW	57.11億kWh 433.16万kW	104.55億kWh 883.38万kW

7 2017年度までの重点的な取組の目標



基本政策	重点的な取組	2017年度までの目標			
		(基準年度)	現 状	⇒	目 標
再生可能エネルギー等の導入加速化	・住宅用太陽光発電設備(10kW未満)の導入	導入量(累計) (2010年度)	11.29万kW	⇒	92万kW
	・事業所用太陽光発電設備(10kW以上)の導入	導入量(累計) (2010年度)	1.82万kW	⇒	138万kW
	・地域防災拠点施設等への太陽光発電設備の導入	導入量(新規)			654kW
安定した分散型電源の導入拡大	・ガスコージェネレーションの導入	導入量(累計) (2010年度)	53万kW	⇒	68万kW
	・家庭用燃料電池の導入	導入台数(累計) (2010年度)	1,600台	⇒	42,000台
	・電気自動車(EV)の導入	導入台数(累計) (2010年度)	1,213台	⇒	18,900台
	・電気自動車用急速充電器の導入	導入基数(累計) (2010年度)	86基	⇒	680基
情報通信技術(ICT)を活用した省エネ・節電の取組促進	・HEMSの導入	導入件数(累計) (2011年度)	1,500件	⇒	130,000件
	・BEMSの導入	導入件数(累計) (2011年度)	2,300件	⇒	3,700件
地域の特性を活かしたスマートコミュニティの形成	・EMSを活用したサービスの実証事業の実施	実施地域 (新規)			4地域
エネルギー産業の育成と振興	・HEMSや水素関連の技術開発・製品開発に関する支援	支援件数 (新規)			20件

根拠

「県内の年間電力消費量」は、これまでの実績並びに今後の節電意識の一層の向上、省エネ機器の導入及び建物の省エネ化等を見込み、数値目標を設定。
 「県内の年間電力消費量に対する分散型電源による発電量の割合」は、再生可能エネルギー等、ガスコージェネレーション、燃料電池等の普及拡大を見込み、数値目標を設定。

特徴的な取組

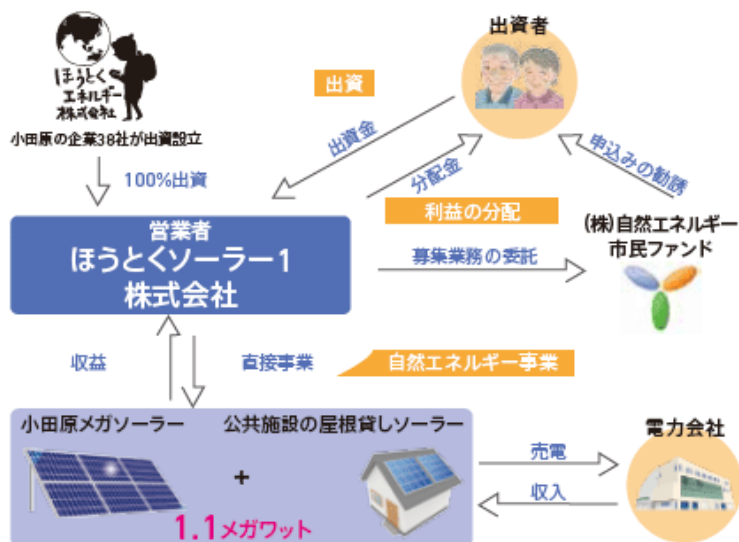
- ✓ 市民ファンドを募ったメガソーラー設置(ほうとくソーラー市民ファンド)(小田原市)

ほうとくソーラー1 株式会社

- ・ ほうとくエネルギー株式会社が 100%出資した事業会社であり、今回対象となる太陽光発電所 1.1 メガワットの事業に特化した特別目的会社 (SPC)。
- ・ 市民出資の元利払いを 2016 年 3 月 31 日までの計算期間まで据え置き、その期間の収益をもとに下記事業の支援を行う。

【主な支援事業】

- *大正時代の小水力発電所遺構を文化財として再生
- *再生可能エネルギーの防災対策利用促進



出典) 株式会社自然エネルギー市民ファンドホームページ

<http://www.greenfund.jp/fund/odawara/>

- ✓ かながわソーラーバンクシステムの運営
県民や事業者に太陽光発電設備をリーズナブルな価格で安心して設置してもらうために、一定の要件を満たす設置プランを公募・登録し、県が開設した設置支援相談窓口「かながわソーラーセンター」で周知するとともに、設置に関する相談等を行っている。
- ✓ 薄膜太陽電池の導入促進
耐荷重の乏しい工場等の事業所に太陽光発電設備を設置するためには、薄くて軽い薄膜太陽電池の導入が必要であることから、薄膜太陽電池の新たな用途を開発し、市場を創出することで価格低下を促し普及拡大につなげることを目的に、企業から多様な用途の提案を募り、折板屋根や鉄道の法面などへの導入支援（補助）を行っている。

都道府県	新潟県																																				
目標	導入推進の方向																																				
根拠																																					
特徴的な取組	<p>✓ 粟島浦村沖北方海域が国の海洋再生可能エネルギー実証フィールドに選定（H26.7）。実証フィールドで潮流発電の実証試験を開始（H26年度～）</p> <p>1. 実証フィールドに選定された海域（6海域）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>都道府県</th> <th>海域</th> <th>エネルギーの種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新潟県</td> <td>粟島浦村沖</td> <td>海流（潮流）、波力、浮体式洋上風力</td> </tr> <tr> <td>佐賀県</td> <td>唐津市 加部島沖</td> <td>潮流、浮体式洋上風力</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">長崎県</td> <td>五島市 久賀島沖</td> <td>潮流</td> </tr> <tr> <td>五島市 柁島沖</td> <td>浮体式洋上風力</td> </tr> <tr> <td>西海市 江島・平島沖</td> <td>潮流</td> </tr> <tr> <td>沖縄県</td> <td>久米島町</td> <td>海洋温度差</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 要件への適合を確認次第、実証フィールドに選定することとする海域（5海域）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>都道府県</th> <th>海域</th> <th>エネルギーの種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>岩手県</td> <td>釜石市沖</td> <td>波力、浮体式洋上風力</td> </tr> <tr> <td>和歌山県</td> <td>串本町 潮岬沖</td> <td>海流</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">鹿児島県</td> <td>長島町 長島海峡</td> <td>潮流</td> </tr> <tr> <td>十島村 口之島・中之島周辺</td> <td>海流</td> </tr> <tr> <td>沖縄県</td> <td>石垣島沖</td> <td>波力</td> </tr> </tbody> </table>	都道府県	海域	エネルギーの種類	新潟県	粟島浦村沖	海流（潮流）、波力、浮体式洋上風力	佐賀県	唐津市 加部島沖	潮流、浮体式洋上風力	長崎県	五島市 久賀島沖	潮流	五島市 柁島沖	浮体式洋上風力	西海市 江島・平島沖	潮流	沖縄県	久米島町	海洋温度差	都道府県	海域	エネルギーの種類	岩手県	釜石市沖	波力、浮体式洋上風力	和歌山県	串本町 潮岬沖	海流	鹿児島県	長島町 長島海峡	潮流	十島村 口之島・中之島周辺	海流	沖縄県	石垣島沖	波力
都道府県	海域	エネルギーの種類																																			
新潟県	粟島浦村沖	海流（潮流）、波力、浮体式洋上風力																																			
佐賀県	唐津市 加部島沖	潮流、浮体式洋上風力																																			
長崎県	五島市 久賀島沖	潮流																																			
	五島市 柁島沖	浮体式洋上風力																																			
	西海市 江島・平島沖	潮流																																			
沖縄県	久米島町	海洋温度差																																			
都道府県	海域	エネルギーの種類																																			
岩手県	釜石市沖	波力、浮体式洋上風力																																			
和歌山県	串本町 潮岬沖	海流																																			
鹿児島県	長島町 長島海峡	潮流																																			
	十島村 口之島・中之島周辺	海流																																			
沖縄県	石垣島沖	波力																																			

都道府県	石川県
目標	石川県再生可能エネルギー推進計画（平成 26 年 9 月策定） 導入推進の方針

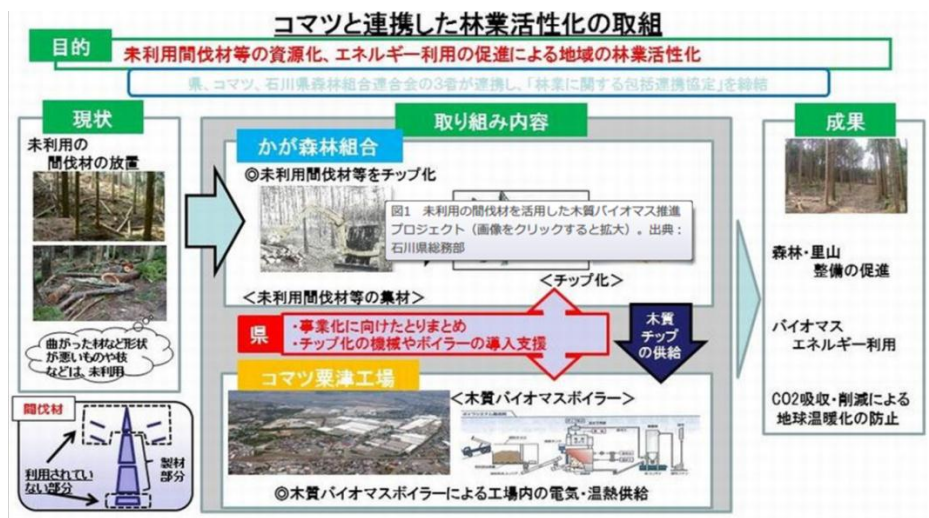
根拠

特徴的な取組
 ✓ メタンガス発電の売電収入により下水道経営の市負担を軽減



出典) 石川県ホームページ
https://www.pref.ishikawa.lg.jp/chiji/kisya/h25_2_20/06.html

✓ 県・民間企業（コマツ）・県森林組合連合会の包括連携協定（H26.2）に基づき、未利用間伐材等をコマツが県内工場において燃料として利用する取り組みをモデル的に推進し、里山の維持保全と林業の活性化を図る。



出典) 石川県ホームページ

http://www.pref.ishikawa.lg.jp/chiji/kisya/h26_1_27/03.html

- ・ 県が国の補正予算からコマツと森林組合に設備導入費を支援する
- ・ コマツが木質バイオマスに対応できるボイラーを栗津工場に導入
- ・ 小松市などの森林を管理する「かが森林組合」が間伐（かんばつ）材から木質チップを製造してコマツに供給する

都道府県 長野県

目標 長野県環境エネルギー戦略～第三次長野県地球温暖化防止県民計画～（平成 25 年 2 月策定）
 期間：2013（平成 25）年度から 2020（平成 32）年度までの 8 年間

自然エネルギー導入量

1 基準年度

2010（平成 22）年度 1.1 万 T J（最終エネルギー消費量に占める割合 6.0%）

2 目標

短期：2020（平成 32）年度 1.7 万 T J（対基準年度増加率 55.1%）
 （基準年度最終エネルギー消費量に占める割合 9.3%）

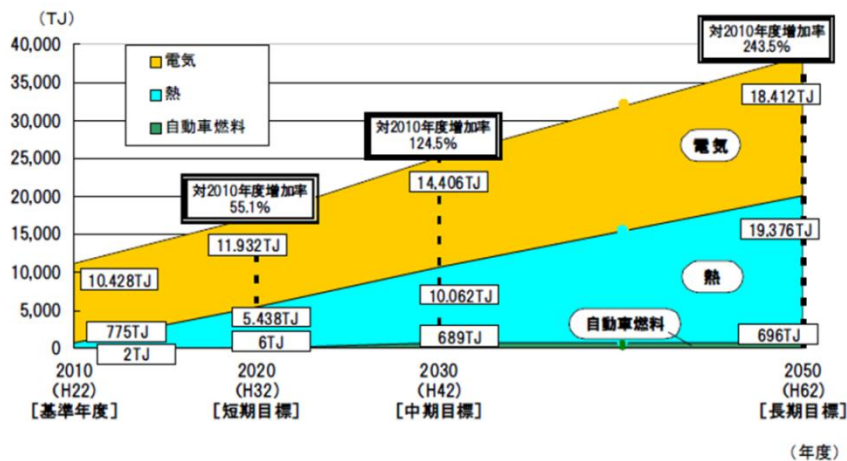
中期：2030（平成 42）年度 2.5 万 T J（対基準年度増加率 124.5%）
 （基準年度最終エネルギー消費量に占める割合 13.5%）

長期：2050（平成 62）年度 3.8 万 T J（対基準年度増加率 243.5%）
 （基準年度最終エネルギー消費量に占める割合 20.7%）

図表 3-8 自然エネルギー導入量の拡大目標

（単位：TJ）

区分	2010 (H22) [基準年度]	2020 (H32) [短期目標]	2030 (H42) [中期目標]	2050 (H62) [長期目標]
電気	10,428	11,932	14,406	18,412
熱	775	5,438	10,062	19,376
自動車燃料	2	6	689	696
計	11,205	17,376	25,157	38,484



自然エネルギー発電設備容量

1 基準年度

2010（平成 22）年度 10 万 kW（最大電力需要に占める割合 3.6%）（既設の小水力発電を除く）

2 目標（新設の小水力発電を含む）

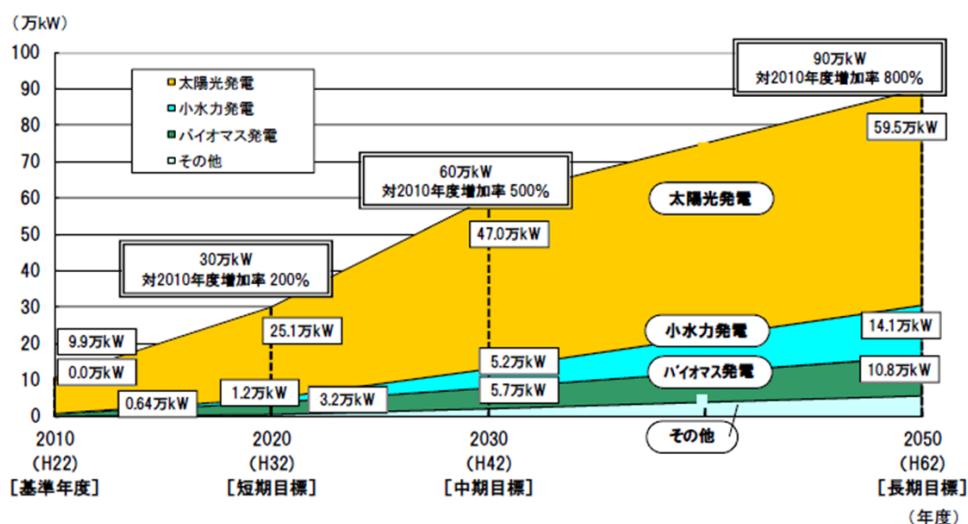
短期：2020（平成 32）年度 30 万 kW（対基準年度増加率 200%）
 （基準年度最大電力需要に占める割合 10%）

中期：2030（平成 42）年度 60 万 kW（対基準年度増加率 500%）
 （基準年度最大電力需要に占める割合 20%）
 長期：2050（平成 62）年度 90 万 kW（対基準年度増加率 800%）
 （基準年度最大電力需要に占める割合 30%）

図表 3-9 自然エネルギー発電設備容量の拡大目標

(単位:万kW)

区分	2010 (H22) [基準年度]	2020 (H32) [短期目標]	2030 (H42) [中期目標]	2050 (H62) [長期目標]
太陽光発電	9.9	25.1	47	59.5
小水力発電	0	1.2	5.2	14.1
バイオマス発電	0.64	3.2	5.7	10.8
その他	0.07	0.5	2.1	5.6
計	10.61	30	60	90



根拠

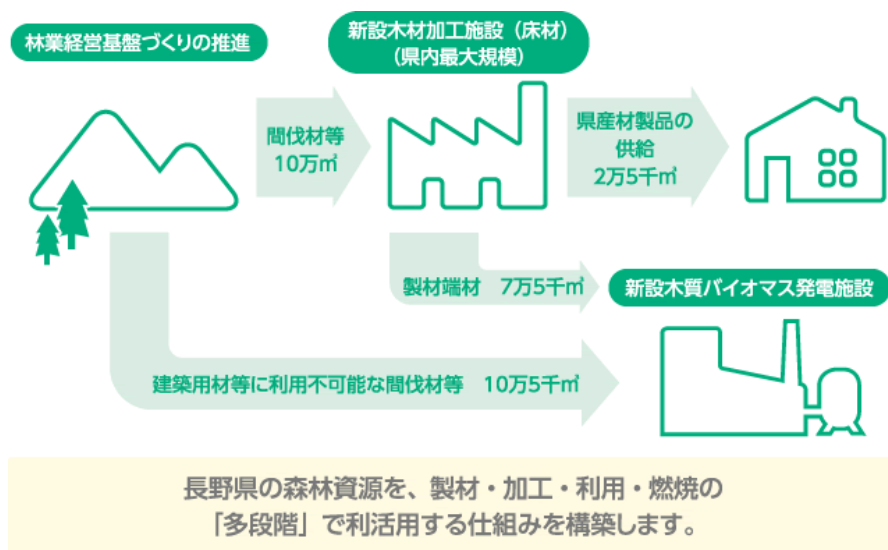
- ・ 自然エネルギー導入量
 固定価格買取制度の導入、長野県内のポテンシャルや近年の導入動向等を踏まえて設定。この目標は、国のエネルギー・環境会議「エネルギー・環境に関する選択肢」や EU の再生可能エネルギー普及シナリオに照らしても妥当なレベルと考えられる。
- ・ 自然エネルギー発電設備容量
 長野県内のポテンシャルや固定価格買取制度による導入量、近年の導入動向等を踏まえて設定

特徴的な取組

- ✓ 建築物自然エネルギー導入検討制度
建築物の新築時に、自然エネルギー導入の検討を条例で義務づけ。平成 26 年 4 月から運用開始（戸建て住宅を含むほぼ全ての建築物を対象とする点において、全国初の試み）。
- ✓ 自然エネルギー信州ネット
 ・ 長野県ならではの「自然エネルギー普及モデル」をつくることを目的に、市民個人、市民団体、地域企業、大学等と行政機関がつながった協働ネットワーク

ク。
 ・「地域協議会」と連携して、長野県の各地域での資源と人材を活かした市民参加型のビジネスモデルを構築し、持続可能な地域づくりを目指す。

- ✓ おひさま BUN・SUN メガソーラープロジェクト（2013年稼働 県事業）
 - ・ 県施設の屋根貸し事業（相手方：岡谷酸素）
 - ・ 事業に係るデータはすべてオープン、また、売電収入の一部を信州ネットに提供する。信州ネットは岡谷酸素からの情報やデータを整理分析して、県内にノウハウを広める。
 - ・ 地域への経済効果も分析し、ランニングを含めた事業費総額の87%が県内に回り、地域への経済効果が20年間トータルで10億円近くになる。
- ✓ 信州 F-POWER プロジェクト
 - ・ 建材メーカーの征矢野建材を事業主体に、県、塩尻市、信州大学などが連携する。
 - ・ 木材加工及び木質バイオマス発電施設の整備、木材の安定供給体制づくり、発電時の熱利用などにより、循環型社会の形成、雇用創出、地域活性化を目指す。
 - ・ （木材加工施設とバイオマス発電施設の平成27年4月稼働を目指していたが、発電設備業者の変更や円安による事業費増加などで遅れ、当初より2年遅れの平成29年度稼働を目指している。）



出典) 信州しおじり木質バイオマス推進協議会ホームページ
http://fpp.shiojiri.com/aboutfpp/categories/01_about.html

都道府県	岐阜県																																																												
目標	<p>岐阜県環境基本計画（平成 23 年 3 月策定） 期間：平成 23 年度～平成 27 年度</p> <p>Ⅲ 低炭素社会ぎふづくり</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>単位</th> <th>計画策定時の現況値 (H21年度末)</th> <th>中間目標値 (H25年度末)</th> <th>目標値 (H27年度末)</th> <th>指標の趣旨及び考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>温室効果ガス削減目標</td> <td colspan="5">岐阜県地球温暖化対策実行計画に定める目標値</td> </tr> <tr> <td>ぎふエコ宣言参加者人数</td> <td>人</td> <td>122,194</td> <td>200,000</td> <td>220,000</td> <td>(趣旨) ・県内での地球温暖化防止に関する取組みの波及度合いを示す。 (最終目標値の考え方(根拠)) ・H25年度末までに20万人の参加を目指す。その後は県外からの入り込み者(県内への通勤者、観光客など)への普及を年1万人ずつ図る。</td> </tr> <tr> <td>新エネルギー・省エネルギー関連指標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(趣旨) ・本県におけるエネルギーインフラの将来像を定量的に示したものの。 (最終目標値の考え方(根拠)) ・「岐阜県次世代エネルギービジョン」の目標値を設定する。なお、「次世代エネルギーインフラの導入」については、インフラの構成要素の一つである蓄電池等の普及がH27年度以降と見込まれるため、中間目標は設定しない。</td> </tr> <tr> <td>・EV・PHVの導入</td> <td>台</td> <td>60</td> <td>16,000 (H27年度)</td> <td>156,000 (H32年度)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・太陽光発電の導入</td> <td>世帯</td> <td>10,100</td> <td>60,000 (H27年度)</td> <td>75,000 (H32年度)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・次世代エネルギーインフラの導入</td> <td>世帯</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>65,000 (H32年度)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>温室効果ガス排出削減計画提出事業者数</td> <td>事業者</td> <td>—</td> <td>330</td> <td>350</td> <td>(趣旨) ・各事業所の温室効果ガスの排出状況や削減に関する対策の状況を示す。 (最終目標値の考え方(根拠)) ・年10所の増を目指す(初期値:300所)</td> </tr> <tr> <td>農業用水を活用した小水力発電の導入</td> <td>箇所</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>(趣旨) ・自然エネルギー活用による環境負荷軽減のため、農業用水路の落差等を利用した小水力発電の導入促進を図る。 (最終目標値の考え方(根拠)) ・期間内に小水力発電施設整備を計画している地区数を計上する。</td> </tr> <tr> <td>木質バイオマス活用施設数</td> <td>施設数</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>(趣旨) ・森林資源を有効利用し、木質バイオマスのエネルギー利用の促進を図る。 (最終目標値の考え方(根拠)) ・中期:長期構想の目標値 ・最終:岐阜県森林づくり基本計画における10年後(H28)の指標※H23見直しの予定</td> </tr> </tbody> </table> <p>「岐阜県次世代エネルギービジョン」（平成 23 年 3 月策定）による目標設定含む。</p>	指標名	単位	計画策定時の現況値 (H21年度末)	中間目標値 (H25年度末)	目標値 (H27年度末)	指標の趣旨及び考え方	温室効果ガス削減目標	岐阜県地球温暖化対策実行計画に定める目標値					ぎふエコ宣言参加者人数	人	122,194	200,000	220,000	(趣旨) ・県内での地球温暖化防止に関する取組みの波及度合いを示す。 (最終目標値の考え方(根拠)) ・H25年度末までに20万人の参加を目指す。その後は県外からの入り込み者(県内への通勤者、観光客など)への普及を年1万人ずつ図る。	新エネルギー・省エネルギー関連指標					(趣旨) ・本県におけるエネルギーインフラの将来像を定量的に示したものの。 (最終目標値の考え方(根拠)) ・「岐阜県次世代エネルギービジョン」の目標値を設定する。なお、「次世代エネルギーインフラの導入」については、インフラの構成要素の一つである蓄電池等の普及がH27年度以降と見込まれるため、中間目標は設定しない。	・EV・PHVの導入	台	60	16,000 (H27年度)	156,000 (H32年度)		・太陽光発電の導入	世帯	10,100	60,000 (H27年度)	75,000 (H32年度)		・次世代エネルギーインフラの導入	世帯	—	—	65,000 (H32年度)		温室効果ガス排出削減計画提出事業者数	事業者	—	330	350	(趣旨) ・各事業所の温室効果ガスの排出状況や削減に関する対策の状況を示す。 (最終目標値の考え方(根拠)) ・年10所の増を目指す(初期値:300所)	農業用水を活用した小水力発電の導入	箇所	0	1	3	(趣旨) ・自然エネルギー活用による環境負荷軽減のため、農業用水路の落差等を利用した小水力発電の導入促進を図る。 (最終目標値の考え方(根拠)) ・期間内に小水力発電施設整備を計画している地区数を計上する。	木質バイオマス活用施設数	施設数	5	7	7	(趣旨) ・森林資源を有効利用し、木質バイオマスのエネルギー利用の促進を図る。 (最終目標値の考え方(根拠)) ・中期:長期構想の目標値 ・最終:岐阜県森林づくり基本計画における10年後(H28)の指標※H23見直しの予定
指標名	単位	計画策定時の現況値 (H21年度末)	中間目標値 (H25年度末)	目標値 (H27年度末)	指標の趣旨及び考え方																																																								
温室効果ガス削減目標	岐阜県地球温暖化対策実行計画に定める目標値																																																												
ぎふエコ宣言参加者人数	人	122,194	200,000	220,000	(趣旨) ・県内での地球温暖化防止に関する取組みの波及度合いを示す。 (最終目標値の考え方(根拠)) ・H25年度末までに20万人の参加を目指す。その後は県外からの入り込み者(県内への通勤者、観光客など)への普及を年1万人ずつ図る。																																																								
新エネルギー・省エネルギー関連指標					(趣旨) ・本県におけるエネルギーインフラの将来像を定量的に示したものの。 (最終目標値の考え方(根拠)) ・「岐阜県次世代エネルギービジョン」の目標値を設定する。なお、「次世代エネルギーインフラの導入」については、インフラの構成要素の一つである蓄電池等の普及がH27年度以降と見込まれるため、中間目標は設定しない。																																																								
・EV・PHVの導入	台	60	16,000 (H27年度)	156,000 (H32年度)																																																									
・太陽光発電の導入	世帯	10,100	60,000 (H27年度)	75,000 (H32年度)																																																									
・次世代エネルギーインフラの導入	世帯	—	—	65,000 (H32年度)																																																									
温室効果ガス排出削減計画提出事業者数	事業者	—	330	350	(趣旨) ・各事業所の温室効果ガスの排出状況や削減に関する対策の状況を示す。 (最終目標値の考え方(根拠)) ・年10所の増を目指す(初期値:300所)																																																								
農業用水を活用した小水力発電の導入	箇所	0	1	3	(趣旨) ・自然エネルギー活用による環境負荷軽減のため、農業用水路の落差等を利用した小水力発電の導入促進を図る。 (最終目標値の考え方(根拠)) ・期間内に小水力発電施設整備を計画している地区数を計上する。																																																								
木質バイオマス活用施設数	施設数	5	7	7	(趣旨) ・森林資源を有効利用し、木質バイオマスのエネルギー利用の促進を図る。 (最終目標値の考え方(根拠)) ・中期:長期構想の目標値 ・最終:岐阜県森林づくり基本計画における10年後(H28)の指標※H23見直しの予定																																																								
根拠																																																													
特徴的な取組み	<p>✓ 美濃加茂エネルギーファーム【県有地の貸与による大規模太陽光発電事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 税収増 <p>県有地 24,181m² の土地貸付料収入あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産業の活性化、雇用増など <p>最大出力 1.5MW 程度の発電電力の売電、太陽光パネル架台下を利用した農業事業による雇用創出、環境教育を目的とした小中学生見学コース、災害時に利用可能な非常用コンセント等の設置</p> <p>✓ 木質バイオマス発電事業【県補助・融資事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 26 年 12 月に岐阜県内で 5000kw 級の県内初となる未利用木材を主たる燃料とする木質バイオマス発電施設が稼働する。 ・ 発電施設での直接雇用 20 名のほか、燃料となる木材の購入額として年間約 5.5 億円、さらに燃料の加工・収集・運搬の各部門での経済効果及び雇用 																																																												

	<p>の増加が期待されている。</p> <p>✓ 小水力発電【県営土地改良事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岐阜県では、農業用水利施設を活用した小水力発電の導入により、その売電収益を農村振興施設の維持管理に充当するなど、過疎化・高齢化が進む農村地域において地域振興につながるものとして、重点的に取り組んでいる。 ・ 固定価格買取制度創設後、農業用水利施設を活用した県営施工第1号として、加子母清流発電所が平成26年2月に運転開始し、売電収益を中津川市が保有している土地改良施設等の維持管理費に充てている。
--	--

都道府県	兵庫県																																											
目標	<p>第3次兵庫県地球温暖化防止推進計画（平成26年3月策定） 期間：平成26年3月から平成32年度まで</p> <p>2020年度末までに県内の再生可能エネルギーを新たに100万kW導入する ～ひょうご100万キロワット創出プラン～</p> <p style="text-align: center;">表11 再生可能エネルギーの導入目標設定の考え方 （単位：千kW）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th colspan="2">導入実績</th> <th>導入目標</th> <th rowspan="2">目標設定の考え方</th> </tr> <tr> <th>2010 (H22)</th> <th>2012[※] (H24)</th> <th>2020 (H32)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>住宅用 太陽光発電</td> <td>122</td> <td>196</td> <td>517 (+321)</td> <td>・固定価格買取制度等により高まった現在の導入ベース(2012:約40千kW(約9,000件))を低利融資等の各種施策により、2020年まで毎年維持するものとする。</td> </tr> <tr> <td>非住宅用 太陽光発電</td> <td>23</td> <td>61</td> <td>803 (+742)</td> <td>・過去の導入ベース(2011:6千kW)を、低利融資や相談体制の充実等により2020年まで毎年維持するものとする。 ・加えて、導入実績及び計画値(694千kW)を加算した。</td> </tr> <tr> <td>風力発電</td> <td>43</td> <td>55</td> <td>56 (+1)</td> <td>・低周波騒音や鳥獣保護(バードストライク)等の課題が少ない適地に小型風力発電の導入が進むと想定した。</td> </tr> <tr> <td>小水力発電</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>5 (+1)</td> <td>・新たな設置計画を見込むとともに、地域資源の有効活用の観点から、マイクロ水力発電の導入も進むとし、約2割増を見込んだ。</td> </tr> <tr> <td>バイオマス発電</td> <td>86</td> <td>87</td> <td>109 (+22)</td> <td>・木質バイオマス発電等新たな設置計画を見込むとともに、石炭ボイラーへの木質チップの混焼等が進むと想定し、約2割増を見込んだ。</td> </tr> <tr> <td>ごみ発電</td> <td>53</td> <td>55</td> <td>65 (+10)</td> <td>・炉の新設や更新のタイミングに併せて導入を行うことから、具体的な計画値を見込んだ。</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>331</td> <td>458</td> <td>1,555 (+1,097)</td> <td>注：()の数値は対2012</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※見込値</p> <p>熱利用については、過去の設備導入のトレンド等のデータを把握できないため、国の目標値設定の根拠や目標達成のためのロードマップが示されてから、県の目標値の設定を検討する。</p>	種別	導入実績		導入目標	目標設定の考え方	2010 (H22)	2012 [※] (H24)	2020 (H32)	住宅用 太陽光発電	122	196	517 (+321)	・固定価格買取制度等により高まった現在の導入ベース(2012:約40千kW(約9,000件))を低利融資等の各種施策により、2020年まで毎年維持するものとする。	非住宅用 太陽光発電	23	61	803 (+742)	・過去の導入ベース(2011:6千kW)を、低利融資や相談体制の充実等により2020年まで毎年維持するものとする。 ・加えて、導入実績及び計画値(694千kW)を加算した。	風力発電	43	55	56 (+1)	・低周波騒音や鳥獣保護(バードストライク)等の課題が少ない適地に小型風力発電の導入が進むと想定した。	小水力発電	4	4	5 (+1)	・新たな設置計画を見込むとともに、地域資源の有効活用の観点から、マイクロ水力発電の導入も進むとし、約2割増を見込んだ。	バイオマス発電	86	87	109 (+22)	・木質バイオマス発電等新たな設置計画を見込むとともに、石炭ボイラーへの木質チップの混焼等が進むと想定し、約2割増を見込んだ。	ごみ発電	53	55	65 (+10)	・炉の新設や更新のタイミングに併せて導入を行うことから、具体的な計画値を見込んだ。	計	331	458	1,555 (+1,097)	注：()の数値は対2012
種別	導入実績		導入目標	目標設定の考え方																																								
	2010 (H22)	2012 [※] (H24)	2020 (H32)																																									
住宅用 太陽光発電	122	196	517 (+321)	・固定価格買取制度等により高まった現在の導入ベース(2012:約40千kW(約9,000件))を低利融資等の各種施策により、2020年まで毎年維持するものとする。																																								
非住宅用 太陽光発電	23	61	803 (+742)	・過去の導入ベース(2011:6千kW)を、低利融資や相談体制の充実等により2020年まで毎年維持するものとする。 ・加えて、導入実績及び計画値(694千kW)を加算した。																																								
風力発電	43	55	56 (+1)	・低周波騒音や鳥獣保護(バードストライク)等の課題が少ない適地に小型風力発電の導入が進むと想定した。																																								
小水力発電	4	4	5 (+1)	・新たな設置計画を見込むとともに、地域資源の有効活用の観点から、マイクロ水力発電の導入も進むとし、約2割増を見込んだ。																																								
バイオマス発電	86	87	109 (+22)	・木質バイオマス発電等新たな設置計画を見込むとともに、石炭ボイラーへの木質チップの混焼等が進むと想定し、約2割増を見込んだ。																																								
ごみ発電	53	55	65 (+10)	・炉の新設や更新のタイミングに併せて導入を行うことから、具体的な計画値を見込んだ。																																								
計	331	458	1,555 (+1,097)	注：()の数値は対2012																																								
根拠	再生可能エネルギーは、温室効果ガス削減に資することはもとより、エネルギーの自立性向上や地域資源の有効活用の観点からも導入を拡大するべきであることから、再生可能エネルギーの導入実績等を踏まえ、当面の発電に係る導入目標を設定する。																																											
特徴的な取組	<p>✓ 住民参加型市場公募債発行</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <h3 style="text-align: center; color: blue;">住民参加型太陽光発電事業</h3> <ul style="list-style-type: none"> ■ あわじ環境未来島構想の住民参加による再生可能エネルギー創出のシンボルプロジェクトとして、(一財)淡路島くにもみ協会の太陽光発電事業を実施。 ■ 事業資金として、県が住民参加型市場公募債(あわじ環境未来島債)を発行し、淡路島民を中心に資金を集め、同協会に貸付を行う。 <p style="text-align: center; color: red; font-weight: bold;">➡ 住民主導の発電事業までは至らず</p> <p style="text-align: center; color: blue;">スキーム図</p>  </div>																																											

出典) 特定非営利活動法人 環境エネルギー政策研究所ホームページ
<http://www.isep.or.jp/wp-content/uploads/2013/10/2-2-1Hyogo.pdf>

※あわじ環境未来島特区

H23.12 淡路島が地域活性化総合特別区域に指定。

政策課題として「エネルギー持続の地域づくり事業」「農と暮らし持続の地域づくり事業」を挙げている。「エネルギー持続の地域づくり事業」の取組の一つとして、地域に内在する自然資源等を効果的に活用した多様な再生可能エネルギー創出に取り組む。公営企業資産(ダム、土地)を有効活用し CO2 削減と公営企業の経営向上を図る。

- ✓ 兵庫県企業庁 メガソーラープロジェクト
 - ・ 兵庫県企業庁が保有する資産・用地に、太陽光発電施設を整備
 - ・ H27年2月末現在、計10箇所 29,600kW
 - ・ ダム堤体の有効活用、木製架台の採用(県産木材使用)、災害時の非常電力供給、環境学習
- ✓ 平成26年度地域主導型再生エネルギー導入促進事業
 新たに再生可能エネルギー発電設備の導入を行う自治会・NPO法人等、地域の団体に対して技術的支援や無利子貸付を行い、地域特性を活かした地域主導の再生可能エネルギーの導入を促進する事業

地域主導型再生エネルギー導入促進事業の概要

地域特性を活かした地域主導の再生可能エネルギーの導入を促進するため、再生可能エネルギーの導入に意欲はあるが、資金やノウハウが不足する自治会、NPO法人等に対し、必要に応じて事業計画作成の指導・助言等を行い、(公財)ひょうご環境創造協会が運営する基金を活用した貸付を実施する。

事業の募集

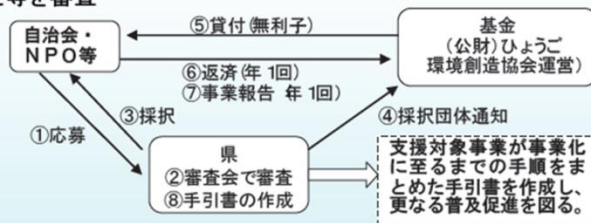
- ・ 支援を必要とする自治会・NPO法人等による再生可能エネルギー導入事業を募集
- ・ 応募に必要な事業計画の作成を「再生可能エネルギー相談支援センター」が支援

事業の審査

- ・ 専門家、先駆者、金融機関、県関係機関で構成する審査会を設置し、事業化計画を基に事業の採算性・継続性等を審査

採択団体への貸付

- ・ 採択団体(10団体程度)への貸付を県から協会に依頼
- ・ 協会と採択団体との間で貸付契約条件を決定後、貸付契約の締結



【事業スキーム図】

出典) 特定非営利活動法人 環境エネルギー政策研究所ホームページ
<http://www.isep.or.jp/wp-content/uploads/2013/10/2-2-1Hyogo.pdf>

都道府県	和歌山県
目標	和歌山県地球温暖化対策実行計画（平成 23 年 3 月策定） 期間：2011 年度（平成 23 年度）から 2015 年度（平成 27 年度）までの 5 年間 利用促進の方向性
根拠	
特徴的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 売電収入の一部で、市民活動、ボランティアを支援 ✓ 地域貢献型メガソーラー「龍谷ソーラーパーク」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 売電から得られる利潤は、和歌山や京都の地域貢献活動や市民活動資金として活用。 ・ 最大出力は合計約 1.85MW、年間約 190 万 kWh ・ 龍谷大学、印南町、株式会社 PLUS SOCIAL などが協力し、それぞれのもつ資源やノウハウなどを提供するかたちで実現。龍谷大学が「社会的責任投資」（SRI）を行い実現にこぎつけた。龍谷大学と印南町は協定を締結し、地域政策の策定、環境教育や地域公共人材育成などの分野で協力し合っていく予定。 ✓ 産廃跡地の有効活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 産業廃棄物が大量に持ち込まれ高濃度のダイオキシンの汚染された場所。土地を再利用するにあたっては地中を深く掘り起こすような工事はできず、農地として使うのにも抵抗があった。無害化処理してから長らく使われないままだった土地に、地中を掘らなくても設置できる太陽光発電所を誘致することにした。 ・ ダイオキシン無害化処理対策地（橋本市）太陽光発電所 714kW ・ ①環境学習の支援（見学施設・設備の設置、見学会実施）②非常用電源の提供③防災対策及びまちづくりの提案など、和歌山県の防災政策に貢献できる提案。

都道府県	岡山県
目標	<p>おかやま新エネルギービジョン(平成 23 年 3 月策定、平成 24 年 5 月目標値見直し)</p> <p>目標年次平成 32 (2020) 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内に設置されたメガソーラーの数<目標 25 施設> ・ 県民参加の取組で設置された発電施設の数<目標 80 施設> ・ 河川や農業用水等を活用し、市町村やNPO等が整備した小水力発電の数<目標 40 件> ・ 木質バイオマスを新エネルギーとして利活用している地域の数<目標 10 地域> ・ 太陽光発電による自動かん水システムを導入した施設の数<目標 75 箇所> ・ 住宅用太陽光発電設備の総設備容量<目標 300,000kW>
根拠	
特徴的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 売電収入の一部で、研究開発、環境教育、エネルギー分野の産業振興に活用 ✓ NPO 法人おかやまエネルギーの未来を考える会 住民から寄付を募って市立保育園の屋根に太陽光発電パネルを設置し、エネルギーの地産地消を進めるとともに、環境教育に役立てるという市民共同発電所の活動を進めてきた。市立保育園、図書館、コンベンションホール等へ設置。

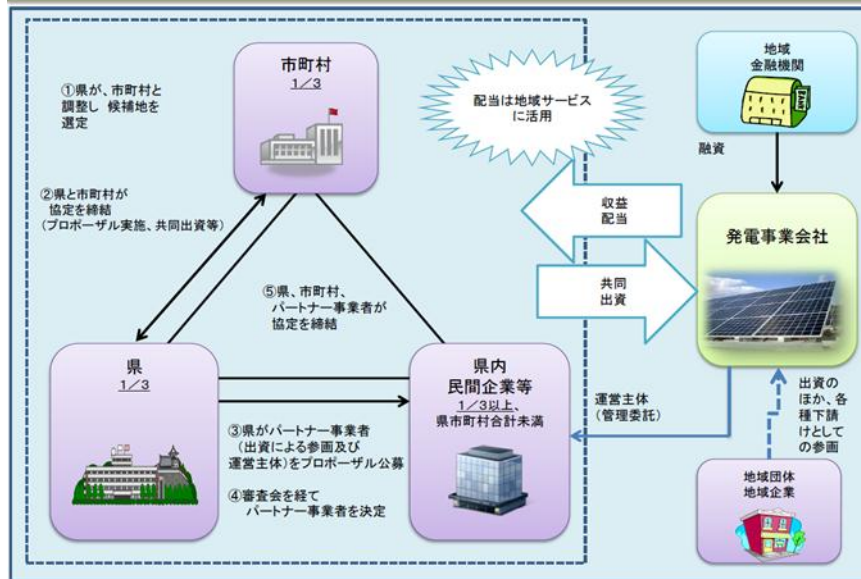
都道府県	広島県																																								
目標	<p>広島県地域新エネルギービジョン（平成17年3月策定） （第2次広島県地球温暖化防止地域計画で導入目標見直し）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区 分</th> <th>平成26(2014)年度 目標(見直し前)</th> <th>平成32(2020)年度 目標(見直し後)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">供給 サイド</td> <td>太陽光発電 (kl (原油換算))</td> <td>6,700</td> <td>64,000</td> </tr> <tr> <td>太陽熱利用 (kl (原油換算))</td> <td>42,300</td> <td>50,700</td> </tr> <tr> <td>風力発電 (kl (原油換算))</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>バイオマス発電 (kl (原油換算))</td> <td>73,900</td> <td>97,000</td> </tr> <tr> <td>バイオマス熱利用 (kl (原油換算))</td> <td>273,200</td> <td>385,500</td> </tr> <tr> <td>廃棄物発電 (kl (原油換算))</td> <td>61,300</td> <td>61,300</td> </tr> <tr> <td>廃棄物熱利用 (kl (原油換算))</td> <td>110,300</td> <td>110,300</td> </tr> <tr> <td colspan="2">小 計 (kl (原油換算))</td> <td>567,800</td> <td>795,800</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">需要 サイド</td> <td>グリーンエネルギー自動車 (台)</td> <td>15,000</td> <td>32,700</td> </tr> <tr> <td>天然ガスコージェネレーション (kW)</td> <td>213,600</td> <td>263,100</td> </tr> <tr> <td>燃料電池 (りん酸形) (kW)</td> <td>19,900</td> <td>19,900</td> </tr> </tbody> </table> <p>出典) 広島県ホームページ https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/20365.pdf</p>	区 分		平成26(2014)年度 目標(見直し前)	平成32(2020)年度 目標(見直し後)	供給 サイド	太陽光発電 (kl (原油換算))	6,700	64,000	太陽熱利用 (kl (原油換算))	42,300	50,700	風力発電 (kl (原油換算))	100	100	バイオマス発電 (kl (原油換算))	73,900	97,000	バイオマス熱利用 (kl (原油換算))	273,200	385,500	廃棄物発電 (kl (原油換算))	61,300	61,300	廃棄物熱利用 (kl (原油換算))	110,300	110,300	小 計 (kl (原油換算))		567,800	795,800	需要 サイド	グリーンエネルギー自動車 (台)	15,000	32,700	天然ガスコージェネレーション (kW)	213,600	263,100	燃料電池 (りん酸形) (kW)	19,900	19,900
区 分		平成26(2014)年度 目標(見直し前)	平成32(2020)年度 目標(見直し後)																																						
供給 サイド	太陽光発電 (kl (原油換算))	6,700	64,000																																						
	太陽熱利用 (kl (原油換算))	42,300	50,700																																						
	風力発電 (kl (原油換算))	100	100																																						
	バイオマス発電 (kl (原油換算))	73,900	97,000																																						
	バイオマス熱利用 (kl (原油換算))	273,200	385,500																																						
	廃棄物発電 (kl (原油換算))	61,300	61,300																																						
	廃棄物熱利用 (kl (原油換算))	110,300	110,300																																						
小 計 (kl (原油換算))		567,800	795,800																																						
需要 サイド	グリーンエネルギー自動車 (台)	15,000	32,700																																						
	天然ガスコージェネレーション (kW)	213,600	263,100																																						
	燃料電池 (りん酸形) (kW)	19,900	19,900																																						
根拠	<p>「広島県地域新エネルギービジョン」 新エネルギーの導入状況や、事業所及び公共施設を対象としたアンケート結果（将来における導入計画・意向）、導入効果の検討結果に基づき設定。 家庭での導入が主となる太陽光発電・熱利用については、これまでの推移で今後とも導入が進んでいくものと想定し、目標の検討を行った。風力発電については、高性能で低価格な製品の販売を見込んで検討を行った。バイオマス発電・熱利用については、地域や事業者の導入に向けた取組を念頭においてモデルを設定し、そのモデルに基づいた検討を行った。事業者や公共施設での導入が中心の廃棄物発電・熱利用については、将来の設備更新計画等を踏まえた検討を行った。 また、需要サイドの新エネルギーについては、これまでの推移を踏まえ、これから急速に実用化、技術展開が進められるものと想定し、積極的な導入を図っていくための目標とした。</p>																																								
特徴的な取組	<p>✓ <u>メガソーラー事業の売電収益を省エネ促進事業等を通じて県民に還元</u> 地域還元型再生可能エネルギー導入事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業主体 ひろしま再生可能エネルギー推進有限責任事業組合 【組合員】広島県、(株)エネルギーソリューション・アンド・サービス、中国電力(株) 事業規模 10.4MW（第1期：6.6MW 第2期：3.8MW） 地域還元事業は、再生可能エネルギーの普及に伴い上昇する電気料金（賦課金）の軽減を図るため、賦課金算定の基礎となる電気使用量の削減につながる「省エネの促進策」を柱とする。 地域還元目標額 20年間で約13億円 																																								

区 分	広島県省エネ活動促進補助金	広島県省エネ設備導入促進補助金
対象事業	(1) 県民の参加を得て行われる省エネルギーに関する普及啓発 (2) 節電の推進に資する調査研究	省エネ型空調機器と併せて、創エネ・畜エネ機器（太陽光発電システム・蓄電池・エネルギー管理システム）を設置する整備費
補助対象者	県内の市町及び団体（学校，地球温暖化対策地域協議会，公衆衛生推進協議会，自治会等の地域活動団体等）	県内の幼稚園又は保育所
補助率・補助上限額	○補助率：補助対象経費の10/10 ○補助上限額：500千円	○補助率：補助対象経費の1/2 ○補助上限額：5,000千円

出典）広島県ホームページ
<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/140186.pdf>

都道府県	高知県
目標	<p>高知県新エネルギービジョン（平成 23 年 3 月策定、平成 25 年 3 月一部改訂）</p> <ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電 <ul style="list-style-type: none"> 10kW 以上 4 年後（平成 27 年度末）61,750kW 10 年後 105,750kW 10kW 未満 4 年後 50,000kW 10 年後 86,000kW 小水力発電 4 年後 2,459kW 10 年後 3,800kW 風力発電 4 年後 71,450kW 10 年後 151,000kW 木質バイオマスエネルギー年間利用量目標 4 年後 40 万 3 千トン 10 年後 53 万トン
根拠	<ul style="list-style-type: none"> 国の「長期エネルギー給見通し」（2005 年基準）における新エネルギーの導入・普及の見通しは、「現状固定ケース」では 2020 年に約 1.5 倍、「最大導入ケース」の場合は約 2 倍 本県でも、2020 年までに、この最大導入ケースである現状（県のエネルギー消費量に占める新エネルギーの割合 1.36%）の 2 倍以上の導入に努める。
特徴的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 木質バイオマス発電事業で、経済波及年間 12 億 5 千万円、雇用誘発 142 人の効果 ✓ 【県補助事業】木質バイオマス施設整備事業 高知県は、全国一位の森林率など豊富な森林資源を有しており、木質バイオマスボイラーの導入促進や木質バイオマス発電の推進等に取り組んでいる。 本事業では、大型製材工場の稼働とあわせて木質バイオマス発電を事業化することで木材の付加価値を高め、森林資源を余すことなく活用し、林業における雇用の場の確保や木材価格の安定化につなげるものである。 事業内容（2 施設分） <ul style="list-style-type: none"> ・送電規模：11,450KW ・木質チップ年間使用量：約 177,000 t ・直接雇用：約 45 人 ・平成 27 年稼働予定 県内への波及効果（1 施設での試算） <ul style="list-style-type: none"> ・全体の経済波及効果：約 1,249 百万円／年（直接・間接的な効果をあわせて） ・全体の雇用誘発効果：約 142 人／年 ✓ こうち型地域還流再生可能エネルギー事業スキーム 県と地元市町村、県内企業などが共同出資で発電事業会社を設立し、得られた利益を地域で還流させる。 平成 26 年 1 月末現在、6 件（すべて太陽光、出力規模合計約 10MW）

こうち型地域還流再エネ事業スキーム



出典）高知県ホームページ

http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030901/files/2014012800389/2014012800389_www_pref_kochi_lg_jp_uploaded_attachment_87548.pdf

都道府県	佐賀県																																																		
目標	<p>佐賀県総合計画 2011<佐賀県政策カタログ 2011> 期間：平成 23 年度～平成 26 年度</p> <p>2. 成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 住宅用太陽光発電の設置件数について、平成26年度までに27,500件とすることを目指します。 ○ 事業所用太陽光発電の設置について、平成26年度までに20MW(メガワット)とすることを目指します。 ○ メガソーラーの設置について、平成26年度までに30MW(メガワット)とすることを目指します。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>単位</th> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">住宅用太陽光発電の設置件数</td> <td rowspan="2">件</td> <td>目標</td> <td>—</td> <td>15,500</td> <td>19,500</td> <td>23,500</td> <td>27,500</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>12,183</td> <td>16,021</td> <td>19,571</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">事業所用太陽光発電の設置</td> <td rowspan="2">MW</td> <td>目標</td> <td>—</td> <td>2.5</td> <td>10</td> <td>15</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>2.5</td> <td>2.5</td> <td>8.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">メガソーラーの設置</td> <td rowspan="2">MW</td> <td>目標</td> <td>—</td> <td>0</td> <td>8</td> <td>18</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>—</td> <td>0</td> <td>5.2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区 分	単位		H22	H23	H24	H25	H26	住宅用太陽光発電の設置件数	件	目標	—	15,500	19,500	23,500	27,500	実績	12,183	16,021	19,571			事業所用太陽光発電の設置	MW	目標	—	2.5	10	15	20	実績	2.5	2.5	8.8			メガソーラーの設置	MW	目標	—	0	8	18	30	実績	—	0	5.2		
区 分	単位		H22	H23	H24	H25	H26																																												
住宅用太陽光発電の設置件数	件	目標	—	15,500	19,500	23,500	27,500																																												
		実績	12,183	16,021	19,571																																														
事業所用太陽光発電の設置	MW	目標	—	2.5	10	15	20																																												
		実績	2.5	2.5	8.8																																														
メガソーラーの設置	MW	目標	—	0	8	18	30																																												
		実績	—	0	5.2																																														
根拠	太陽光発電などの再生可能エネルギーの加速度的普及とスマートグリッド技術等の確立により、地産地消の分散型エネルギー社会の実現を目指す																																																		
特徴的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 有明海沿岸道路太陽光パネル設置運営事業 →道路法面の有効利用（全国初） <ul style="list-style-type: none"> ・ 延長約 2.0km、出力規模約 1MW ・ 細長く連なる用地を 20 区画に分けて、それぞれの区画に低圧（50kW）の発電設備を設置することで電力会社の送配電ネットワークに連系しやすくなり、災害時には独立型の電源として沿線の避難所などにも電力を供給できる。 ・ 事業者は佐賀県から道路の法面の占用許可を受けて、5 年ごとの契約で最長 20 年間にわたって発電事業を運営することができる。 ・ 道路の法面の使用料は発生しない。代わりに事業者は太陽光パネルを設置する近隣の道路や付属物を無償で点検するほか、除草や法面保護に必要な作業を継続的に実施して、道路管理者の佐賀県へ報告する義務を負う。 																																																		

都道府県	熊本県																																		
目標	<p>熊本県総合エネルギー計画（平成 24 年 10 月策定） 期間：平成 24（2012）～32（2020）年度までの 9 年間〔短期 4 年、中長期 9 年〕 ■主な個別目標</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>短期目標 (平成27年度)</th> <th>中長期目標 (平成32年度)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新エネルギー全体</td> <td>32万kL (平成22年度)</td> <td>40万kL</td> <td>60万kL</td> <td>原油換算での新エネルギー導入見込量</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">太陽光発電</td> <td>住宅用 25,141件 (平成22年度) (5.6%)</td> <td>50,000件 (11.3%)</td> <td>75,000件 (17.01%)</td> <td>県内累計導入件数 ※()内は普及率(県内一戸建総数441,000軒で計算)</td> </tr> <tr> <td>事業用 2件 (平成23年度)</td> <td>30件</td> <td>50件</td> <td>県内へのメガソーラー立地件数</td> </tr> <tr> <td>中小水力発電</td> <td>44件 (平成22年度)</td> <td>52件</td> <td>57件</td> <td>県内累計導入件数</td> </tr> <tr> <td>地熱・温泉熱発電</td> <td>0件 (平成22年度)</td> <td>5件</td> <td>7件</td> <td>県内累計導入件数</td> </tr> <tr> <td>バイオマス発電</td> <td>8件 (平成22年度)</td> <td>10件</td> <td>15件</td> <td>県内累計導入件数</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状	短期目標 (平成27年度)	中長期目標 (平成32年度)	備考	新エネルギー全体	32万kL (平成22年度)	40万kL	60万kL	原油換算での新エネルギー導入見込量	太陽光発電	住宅用 25,141件 (平成22年度) (5.6%)	50,000件 (11.3%)	75,000件 (17.01%)	県内累計導入件数 ※()内は普及率(県内一戸建総数441,000軒で計算)	事業用 2件 (平成23年度)	30件	50件	県内へのメガソーラー立地件数	中小水力発電	44件 (平成22年度)	52件	57件	県内累計導入件数	地熱・温泉熱発電	0件 (平成22年度)	5件	7件	県内累計導入件数	バイオマス発電	8件 (平成22年度)	10件	15件	県内累計導入件数
項目	現状	短期目標 (平成27年度)	中長期目標 (平成32年度)	備考																															
新エネルギー全体	32万kL (平成22年度)	40万kL	60万kL	原油換算での新エネルギー導入見込量																															
太陽光発電	住宅用 25,141件 (平成22年度) (5.6%)	50,000件 (11.3%)	75,000件 (17.01%)	県内累計導入件数 ※()内は普及率(県内一戸建総数441,000軒で計算)																															
	事業用 2件 (平成23年度)	30件	50件	県内へのメガソーラー立地件数																															
中小水力発電	44件 (平成22年度)	52件	57件	県内累計導入件数																															
地熱・温泉熱発電	0件 (平成22年度)	5件	7件	県内累計導入件数																															
バイオマス発電	8件 (平成22年度)	10件	15件	県内累計導入件数																															
根拠	平成 32 年度（2020 年度）末における、①新エネルギーの累計導入量と、②省エネルギー等によるエネルギー削減相当量の合計が、平成 21 年度の家庭部門の電力消費相当量となる原油換算 100 万 kL（パークドーム熊本約 1.3 杯分）となることを目指す。																																		
特徴的な取組	<p>✓ くまもと県民発電所構想で売電収入の一部を地元へ還元 「くまもと県民発電所構想」</p> <p>出典) 熊本県ホームページ http://www.pref.kumamoto.jp/common/UploadFileOutput.ashx?c_id=3&id=6552&sub_id=1&flid=2&dan_id=1</p> <p>基本コンセプト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内事業者が再生可能エネルギー事業に参画 ・ 事業者は、部材や工事について、できるだけ地元や県内の業者を活用 ・ 県民や地域は、資金協力や維持管理、地域活性化、まちづくり等で事業に広く関わる。 <p>→「県民による」発電所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資金協力した県民には、相応の利益還元 ・ 事業者は、地元等にも地域貢献の形で利益の一部を還元 																																		

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発電所事業を契機に地域の活性化、人材育成につなげていく ・ 地域の廃校用地等の未利用地をプラスに転換し、地域のより良い将来に向けて持続可能な分散型電源を確保 <p>→「県民のための」発電所</p> <p>認証システム</p> <p>目的：県民発電所のコンセプトに合致するかどうか、事業性が確保されているかなどについて公平な認証機関が審査、認証</p> <p>認証を受けるメリット：県や市町村からの支援等</p> <p>平成 26 年 3 月に 2 か所の県民発電所を認証</p> <p>✓ 熊本県地熱・温泉熱研究会（平成 24 年 8 月設立）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国初の取組みとして、県が呼びかける形で地域・産学官が連携し、地域の産業振興等につながる地熱・温泉熱の活用を検討する ・ 運営に当たっての共通認識 <ul style="list-style-type: none"> 一、「地域の産業振興等につながる地熱・温泉熱活用」を目指すこと。 二、「開発ありき」でなく、地域と連携しながら事業実施の有無を検討すること。 三、研究会自身は事業を実施せず、研究会は、地熱・温泉熱事業に取り組もうとする事業者と地域が共に考え、事業の円滑な推進に資する場を提供するものであること。 四、地熱・温泉熱事業を行おうとする事業者は、既存の温泉の活用に悪影響を与えないとの決意のもとに事業を進めるものとし、温泉の活用に支障があると分かった場合には、解決方法が見つかるまでの間、事業を中断すること。
--	--

都道府県 大分県

目標 大分県新エネルギービジョン（平成14年3月策定、平成23年3月改定、平成26年3月改定）
 期間：平成23年度から平成27年度

1. 現状 平成26年3月
 平成25年3月末時点において、既に導入目標に迫る導入が進む。

	平成24年3月末現在		平成25年3月末現在(A)		平成27年度導入目標(B)		達成率 (H25年3月現在) A/B
	設備容量等 (万kW)	原油換算 (万kl)	設備容量等 (万kW)	原油換算 (万kl)	設備容量等 (万kW)	原油換算 (万kl)	
1 太陽光発電	77,791	1.91	113,812	2.79	136,000	3.40	82.1%
2 太陽熱利用	3	3.12	3	3.12	3	3.38	92.6%
3 風力発電	11,487	0.50	11,487	0.50	17,900	0.78	64.1%
4 地熱発電	154,890	26.18	154,890	26.18	157,890	26.69	98.1%
5 温泉熱発電	3	0.00	48	0.008	500	0.085	9.5%
6 バイオマス発電	12,435	1.29	12,435	1.29	18,075	1.86	66.8%
7 バイオマス熱利用	79,172	8.16	91,559	9.43	67,068	6.91	136.5%
8 水力発電 〔内小水力発電以外〕	339,235	13.38	339,213	13.38	338,189	13.34	100.5%
〔内小水力発電〕	337,235	13.31	337,538	13.31	335,640	13.24	100.9%
9 廃棄物発電	42,100	5.57	42,100	5.57	42,100	5.57	100.0%
10 天然ガスコージェネレーション	22,908	0.81	22,908	0.81	17,056	0.38	134.2%
11 燃料電池	83	0.00	116	0.0012	19,000	0.20	0.60%
12 クリーンエネルギー自動車	17,879	0.36	26,078	0.64	55,800	1.13	46.9%
合計	-	60.96	-	63.31	-	63.72	99.4%

◎目標を上回る導入が進んでいる要因
 ・東日本大震災及び福島第一原発事故以来、再生可能エネルギーがこれまで以上に関心を集める
 ・固定価格買取制度において、導入促進のため、買取価格が高めに設定され、太陽光発電を中心に、再生可能エネルギーが急速に普及
 →固定価格買取制度の影響を受けるエネルギーのうち、導入目標を超える大幅な導入が見込まれるエネルギーの導入目標を見直し

2. 新導入目標

	現27年度導入目標		新27年度導入目標	
	設備容量等 (万kW)	原油換算 (万kl)	設備容量等 (万kW)	原油換算 (万kl)
1 太陽光発電	136,000	3.40	645,025	509,025
2 太陽熱利用	3,380	3.38	0	0
3 風力発電	17,900	0.78	17,900	0
4 地熱発電	157,890	26.69	158,890	1,000
5 温泉熱発電	500	0.08	1,348	848
6 バイオマス発電	18,075	1.86	36,185	18,110
7 バイオマス熱利用	6,908	6.91	0	0
8 水力発電 〔内小水力発電以外〕	338,189	13.34	338,189	0
〔内小水力発電〕	335,640	13.24	335,640	0
9 廃棄物発電	42,100	5.57	48,100	4,000
10 天然ガスコージェネレーション	17,056	0.38	17,056	0
11 燃料電池	19,000	0.20	19,000	0
12 クリーンエネルギー自動車	55,800	1.13	55,800	0
合計	-	63.72	-	124%

実績からの推計値を目標値とする
 導入見込量を見込値とする
 改定は行わない

63.72 万kl → 78.83 万kl (2.4%)

出典) 大分県ホームページ
<http://www.pref.oita.jp/uploaded/attachment/184214.pdf>

根拠 導入量の推計 (H23)

太陽光は導入実績からの推計、FITによる追加導入、メガソーラー建設の計画を見込む

- 太陽熱利用 「長期エネルギー需給見通し(再計算)」(0.22万kl)による追加導入を見込む
- 風力発電 「再生可能エネルギー全量買取制度」(6,400kW)による追加導入を見込む
- 中小水力発電 農業用水路を活用した小水力発電の計画(883kW)による追加導入を見込む
- 地熱発電 地熱バイナリー発電の計画(3,000kW)による追加導入を見込む
- バイオマス発電 バイオマス発電の計画(5,700kW)による追加導入を見込む
- バイオマス熱利用 バイオマスボイラー(原油換算9,830kl)の追加導入を見込む
- 温度差発電 県内企業が開発するプラントの設置(500kW)による追加導入を見込む
- 燃料電池 「長期エネルギー需給見通し(再計算)」(10,290台)による追加導入を見込む
- 天然ガスコージェネレーション 大分瓦斯(株)資料(150kW)による追加導入を見込む
- クリーンエネルギー自動車 「地球温暖化対策に係る中長期ロードマップ(環境省)」等(電気自動車・プラグインハイブリッド自動車2,785台、ハイブリッド自動車53,000台)による追加導入を見込む

出典) 大分県ホームページ
<http://www.pref.oita.jp/uploaded/attachment/131628.pdf>

特徴的な取組

- ✓ 地域ぐるみで太陽光パネルを設置し地域活動費に充当
- ✓ 温泉熱、小水力分野で地場企業連合が形成され新たな雇用を創出
- ✓ 大分県エネルギー産業企業会
 - ・ 県内のエネルギー関連企業や大学、行政機関等の力を結集し、エネルギー産業を県経済の新たな牽引産業とすることを目指して設立
 - ・ 事業内容：エネルギー関連技術・製品の研究開発、人材育成や企業間交流、販路開拓や情報発信
 - ・ WGで「湯けむり発電」を開発
- ✓ 地熱フル活用おおいた新活力創出事業
 県農林水産研究指導センター農業研究部花きグループ（別府市）にある既存の温泉井を活用した温泉熱発電と地熱利用型スマート農業ハウスを建設し、地熱の有効利用により、産業振興、農業振興、観光振興を図るモデル事例の創出を目指す。

H26 地熱フル活用おおいた新活力創出事業

- 趣旨**
- 地熱は大分県が誇る再生可能エネルギー（地熱発電量日本一、温泉源泉数・湧出量日本一）
 - 地熱は安定稼働できる再生可能エネルギーとして注目度は高い
 - 導入促進を図るだけでなく、複合利用でその魅力をフル活用し、おおいたの新たな活力源を創出する。

- ①地場企業の育成に利用
- ②農業で利用
- ③観光で活用

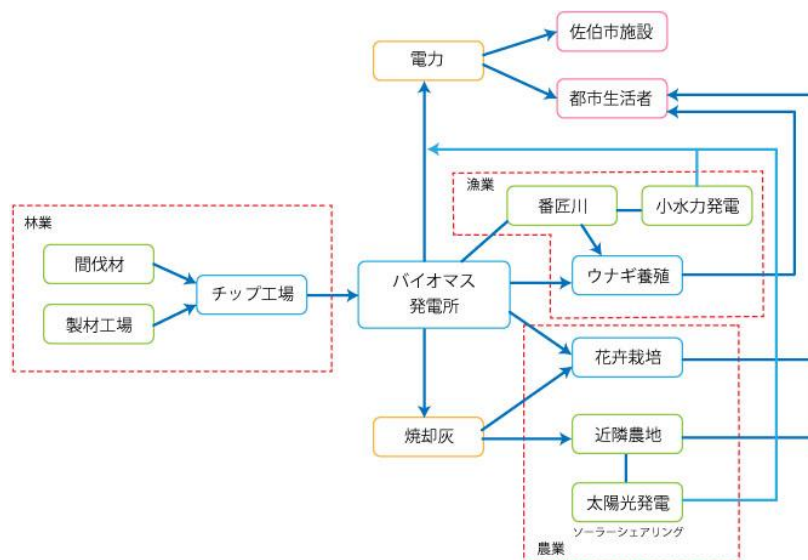


出典) 大分県ホームページ

<http://www.pref.oita.jp/site/energy-kigyokai/chinetsu-onsennetsu2.html>

- ✓ 地域の一次産業と再生可能エネルギー事業のバリューチェーン（佐伯モデル）
- ✓ 新電力エナリスが実施主体
- ✓ バイオマス発電所（2.5MW、2016年4月運転開始予定）
 電力小売の全面自由化に合わせて電力の供給を開始、佐伯市の公共施設や他の都市の家庭にも供給できるようにする
- ✓ チップ工場
 市内の森林で発生する間伐材や林地残材のほか、製材工場が排出する端材を利用して製造する。建築廃材は使わない。
 製造は地元の佐伯広域森林組合と提携し、佐伯市の関連企業が主体になって実施する予定

- ✓ 養殖、小水力発電
発電で生じる高温の蒸気の余熱を再利用。漁業従事者との連携を図る。
川の水流を生かした小水力発電も並行して実施する。
 - ・ 営農型太陽光発電
焼却灰を花の栽培にも利用して、電力だけではなく熱や灰などの副生物を含めて循環型の地産地消モデルを構築する。



出典) 株式会社エナリスホームページ
<http://www.eneres.co.jp/pr/20140724.html>

- ✓ 別府市:温泉発電を抑制
 - ・ 大分県別府市は、温泉資源に影響する大規模温泉利用発電所の新設を今後認めない方針。温泉利用発電所設置に関する条例を 2015 年度中に制定する考え。
 - ・ 温泉利用発電は市が把握しているだけでも既存の源泉を利用する 5 カ所が稼働し、更に 23 カ所で建設計画があり、このうち 6 カ所が新たな源泉を利用するため掘削を予定している。
 - ・ 別府市地域新エネルギービジョン（素案）
市としては、新規掘削を伴う大規模な地熱バイナリー発電を積極的には導入促進しない。既存の源泉を利用した小規模発電所等を中心に導入促進を図り、現状の導入ペース（約 80 kW/年）を維持、2020 年度に温泉利用発電量を 1.7 倍に増やすという目標を掲げた。